

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月26日

【事業年度】 第68期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 日亜鋼業株式会社

【英訳名】 NICHIA STEEL WORKS, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 国峰 淳

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市中浜町19番地

【電話番号】 06(6416)1021(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 沖垣 佳宏

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋2丁目5番18号
日亜鋼業株式会社東京支店

【電話番号】 03(5524)5501

【事務連絡者氏名】 東京支店長 山本 敦久

【縦覧に供する場所】 日亜鋼業株式会社 東京支店
(東京都中央区京橋2丁目5番18号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	26,216,625	26,333,159	28,281,124	31,247,181	30,939,114
経常利益 (千円)	788,593	1,025,139	1,258,720	1,522,003	2,033,746
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	453,713	687,169	764,883	979,442	384,419
包括利益 (千円)	703,113	1,323,006	1,229,679	409,856	324,583
純資産額 (千円)	44,152,370	45,184,650	46,123,666	45,947,062	45,981,140
総資産額 (千円)	62,862,443	64,463,819	65,519,730	66,464,993	64,529,562
1株当たり純資産額 (円)	855.22	875.16	893.71	890.08	890.65
1株当たり当期純利益 (円)	9.37	14.20	15.80	20.24	7.94
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	65.8	65.7	66.0	64.8	66.8
自己資本利益率 (%)	1.1	1.6	1.8	2.3	0.9
株価収益率 (倍)	25.9	19.2	22.1	16.9	35.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,918,470	3,328,389	1,989,828	3,130,354	2,251,046
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,395,477	2,439,375	11,398	498,848	2,513,472
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	344,882	445,619	637,710	653,434	1,761,575
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	5,901,278	6,344,861	7,710,475	9,774,790	7,741,722
従業員数 (人)	755	758	778	833	787

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 第64期、第65期、第66期、第67期、第68期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第67期の期首から適用しており、第66期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	13,998,565	14,528,955	15,457,643	17,173,511	17,848,273
経常利益 (千円)	894,864	937,829	1,151,404	1,521,077	2,027,098
当期純利益 (千円)	388,284	621,900	401,159	542,878	344,312
資本金 (千円)	10,720,068	10,720,068	10,720,068	10,720,068	10,720,068
発行済株式総数 (株)	51,755,478	51,755,478	51,755,478	51,755,478	51,755,478
純資産額 (千円)	37,933,985	38,782,279	39,230,881	38,852,275	38,841,974
総資産額 (千円)	44,956,676	47,006,242	47,461,508	47,686,893	47,186,140
1株当たり純資産額 (円)	783.74	801.27	810.57	802.76	802.56
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	7.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)
1株当たり当期純利益 (円)	8.02	12.85	8.29	11.22	7.11
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	84.4	82.5	82.7	81.5	82.3
自己資本利益率 (%)	1.0	1.6	1.0	1.4	0.9
株価収益率 (倍)	30.3	21.2	42.1	30.5	39.7
配当性向 (%)	74.8	46.7	84.4	53.5	84.4
従業員数 (人)	274	281	287	296	304
株主総利回り (%)	74.3	84.8	109.9	109.6	93.4
(比較指標：配当込みTOPIX) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	347	319	396	406	385
最低株価 (円)	222	201	240	245	206

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 第64期、第65期、第66期、第67期、第68期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

3. 2018年3月期の1株当たり配当額7円には、創業110周年記念配当1円を含んでいる。

4. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものである。

5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第67期の期首から適用しており、第66期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。

2 【沿革】

年月	概要
1908年7月	田中亜鉛鍍金工場として発足
1918年3月	田中亜鉛鍍金工場より資本金25万円にて日本亜鉛鍍株式会社を創立
1929年4月	針金、有刺鉄線、丸釘の製造を開始
1935年5月	日本亜鉛鍍株式会社より日本亜鉛鍍鋼業株式会社に商号変更
1939年9月	日本亜鉛鍍鋼業株式会社より日亜製鋼株式会社に商号変更
1952年6月	日亜製鋼株式会社より分離独立、日亜鋼業株式会社として資本金5,000万円にて設立
1960年6月	東京営業所開設
1961年4月	日亜加工鋼業株式会社を吸収合併し、大阪工場とする
1961年10月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
1962年5月	硬鋼線工場竣工(兵庫県尼崎市道意町)
1964年6月	着色鉄板工場竣工(兵庫県尼崎市道意町)
1968年4月	日亜工運株式会社を資本金300万円にて設立(1975年10月、1,000万円に増資)
1970年6月	鋳螺工場竣工(兵庫県尼崎市道意町)
1973年12月	北海道営業所及び九州営業所開設
1976年2月	日亜企業株式会社を資本金300万円にて設立(1994年7月、1,000万円に増資)
1978年9月	東北営業所開設
1979年4月	東北日亜鋼業株式会社を資本金1,000万円にて設立
1979年4月	名古屋営業所開設
1980年3月	広島営業所開設
1986年2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1987年7月	本社新社屋竣工(兵庫県尼崎市道意町)
1987年9月	東京、大阪両証券取引所市場第一部に指定
1987年12月	東京営業所を支店に昇格
1991年5月	室蘭工場竣工(北海道室蘭市仲町)
1991年7月	北陸営業所開設
1995年4月	茨城工場竣工(茨城県北茨城市)
1998年4月	東北日亜鋼業株式会社より太陽メッキ株式会社に商号変更(1999年5月、5,000万円に増資)
1998年5月	太陽メッキ株式会社が昭和メッキ株式会社を買収したことにより、亜鉛(着色)鉄板の製造を移管
1999年12月	北陸営業所閉所し、新潟営業所を開設
2001年3月	滋賀ボルト株式会社(資本金2億円)の株式を取得し、当社の連結子会社とする
2001年7月	沖縄営業所開設
2001年10月	日亜機電株式会社を資本金3,000万円にて設立
2001年11月	興国鋼線索株式会社(資本金4億5,000万円)の株式を取得し、当社の連結子会社とする
2005年2月	沖縄営業所閉所
2005年4月	中国駐在事務所(北京市)開設
2005年10月	本社鋳螺部門を茨城工場に移転
2007年4月	興国鋼線索株式会社は住友電気工業株式会社の子会社関東鋼線株式会社及び株式会社メタックスと吸収合併し、ジェイ-ワイテックス株式会社に社名変更
2007年4月	新潟営業所を閉所し、新潟駐在所を開設
2008年5月	日亜工運株式会社より日亜物産株式会社に商号変更
2008年7月	新潟駐在所を新潟営業所に昇格
2009年9月	大阪証券取引所市場第一部を上場廃止
2011年10月	室蘭工場閉鎖
2011年11月	中華人民共和国に天津冶金鋼線鋼纜集団有限公司と合併で天津天冶日亜鋼業有限公司(資本金75,000千人民元)を設立
2011年12月	中国駐在事務所閉所
2013年11月	日亜機電株式会社清算
2014年2月	日亜物産株式会社清算

3 【事業の内容】

当社及び当社の関係会社は、当社、連結子会社（ジェイ・ワイテックス㈱、滋賀ボルト㈱、太陽メッキ㈱、天津天冶日亜鋼業有限公司、烟台基威特鋼線製品有限公司）、非連結子会社（日亜企業㈱、南海サービス㈱、㈱エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司）、持分法適用関連会社（TSN Wires Co.,Ltd.）、その他の関係会社（日本製鉄㈱）の計12社で構成されており、普通線材製品、特殊線材製品、鉸螺線材製品の製造販売を主な事業として取り組んでいる。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであり、セグメントと同一の区分である。

普通線材製品 公共土木向けの落石防止網、じゃかご及び民間向け等の各種めっき鉄線、また、めっき鉄線を素線とした加工製品を製造販売している。

（主な関係会社）当社及び天津天冶日亜鋼業有限公司

特殊線材製品 自動車産業向け、電力・通信産業向け及び公共土木向け等の硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープを製造販売している。

（主な関係会社）当社及びジェイ・ワイテックス㈱

鉸螺線材製品 土木・建設業向け等のトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト及びGNボルトを製造販売している。

（主な関係会社）当社及び滋賀ボルト㈱

不動産賃貸 建物、土地の不動産賃貸業を営んでいる。

（主な関係会社）当社及び滋賀ボルト㈱

その他 めっき受託加工及び副産物を販売している。

（主な関係会社）当社、ジェイ・ワイテックス㈱及び太陽メッキ㈱



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合(%)	関係内容	摘要
(連結子会社) ジェイ・ワイテックス㈱	大阪府貝塚市	450,000千円	特殊線材製品 製造・販売	55	当社特殊線材製品の 製造・販売 役員の兼任あり 債務保証 資金貸付あり	(注) 3
滋賀ボルト㈱	滋賀県甲賀市	200,000千円	鋳螺線材製品 製造・販売 不動産賃貸	100	当社鋳螺線材製品の 製造・販売 役員の兼任あり 資金貸付あり	(注) 4
太陽メッキ㈱	兵庫県尼崎市	50,000千円	その他 (メッキ加工・販売)	100	当社普通線材製品及び 特殊線材製品の メッキ加工 役員の兼任あり 資金貸付あり	
天津天冶日亜鋼業 有限公司	中華人民共和国 天津市	75,000千円	普通線材製品 製造・販売	51	役員の兼任あり 資金貸付あり	(注) 4、6
烟台基威特鋼線製品 有限公司	中華人民共和国 烟台市	43,851千円	特殊線材製品 製造・販売	55 〔55〕		
(持分法適用関連会社) TSN Wires Co.,Ltd.	タイ国 バンコク	700,000千THB	金属製品製造業	40	役員の兼任あり 債務保証 資金貸付あり	
(その他の関係会社) 日本製鉄㈱	東京都千代田区	419,524百万円	鉄鋼・非鉄金属等 製造・販売	被所有割合 24.15	商社経由での原材料購 入 当社製品の販売 役員の兼任あり	(注) 5

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄のうち連結子会社については、セグメント情報に記載された名称を記載している。

2. 「議決権の所有(又は被所有)割合」欄の〔内書〕は間接所有である。

3. ジェイ・ワイテックス㈱については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えている。

主要な損益情報等

売上高	12,094,144千円	経常利益	64,469千円	当期純利益	32,077千円
純資産額	6,418,225千円	総資産額	16,671,438千円		

4. 特定子会社に該当する子会社である。

5. 有価証券報告書を提出している。

6. 天津天冶日亜鋼業有限公司については、債務超過会社であり、2019年12月末時点で債務超過額は8,078千円である。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
普通線材製品	103
特殊線材製品	484
鉄線線材製品	48
不動産賃貸	
その他	14
全社(共通)	138
合計	787

- (注) 1. 従業員数は、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)から当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員である。
2. 全社(共通)は、総務、経理及び工場管理部門等の従業員である。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
304	41.1	17.8	5,278

セグメントの名称	従業員数(人)
普通線材製品	102
特殊線材製品	50
鉄線線材製品	14
不動産賃貸	
全社(共通)	138
合計	304

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員である。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいる。
3. 全社(共通)は、総務、経理及び工場管理部門等の従業員である。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は、基幹労連日亜鋼業労働組合と称し、提出会社の本社に同組合本部が置かれ、2020年3月31日現在における組合員数は274人で、上部団体の日本基幹産業労働組合連合会に加盟し、労使関係において特記すべき事項はない。

なお、連結子会社においても労使関係において特記すべき事項はない。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものである。

(1) 経営の基本方針

- ・当社グループは、線材加工製品の総合メーカーとして、時代と環境の変化に柔軟に対応しながら、和親協同・信用保持・創意工夫の社是の下、株主や取引先、従業員、地域社会等のステークホルダーの負託と信頼に応えて、当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、社会の発展に貢献していく。

(2) 経営環境並びに優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

- ・わが国GDPは2019年10 - 12月期に消費増税等の影響により前期比で大幅な縮小に陥った。2020年1-3月期以降においても、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延を受け当面マイナス成長が続く事態が懸念されており、日本経済はリーマンショックを超える深刻な不況に見舞われる見通しにある。
- ・線材二次加工業界においても新型コロナウイルス感染症の影響が顕在化しており、2020年4月以降、当社グループは、需要の急激かつ大幅な落ち込みにより販売数量が減少し、一定規模の減産を余儀なくされている状況にある。分野別では、特に自動車向けや建築向けの影響が大きく、自動車業界では完成車メーカーの減産に伴う自動車部品メーカーの生産活動水準の悪化と在庫調整により、建築業界では建築工事の中止や延期、問屋での在庫調整により、各々需要の縮減を招いている。
- ・そうした中、当社グループは、引き続き収益重視の経営方針を基本とし、この未曾有の難局を乗り越え一層「強靱な体質」を構築していくために、市場競争力の強化、シェアの拡大、需要の創出、品種構成の改善、コスト低減、国内外の子会社・関連会社の経営基盤強化等を図り、グループ全体の収益確保に総力をあげて取り組んでいく所存である。
- ・短期的には、新型コロナウイルス感染症が今期業績に与える影響を最小限に食い止め、当社グループとして収益を確保するために、同感染症の影響が少ない公共土木分野や電力通信分野、獣害防護柵等への営業活動の重点展開により、販売数量のリカバリー対策を講じるとともに、諸コスト削減施策（エネルギーコストや副原料コストの低減、歩留原単位向上、諸経費や販直費の削減等）の最大限の推進、減産を踏まえた臨時休業の実施による雇用調整助成金の活用などを図る。
- ・一方で、中長期的な観点も踏まえた対策としては、当社グループの技術力と商品力を活かして、顧客や社会のニーズを踏まえた需要開拓を国内外で一層推進し、収益の改善に取り組んでいく。
当社は、高度なめっき・加工技術と商品開発力に支えられたナンバーワン・オンリーワン商品をはじめとする高付加価値の多彩な商品群を有している。こうした差別化商品と東西製造拠点からの短納期デリバリーを武器に、製販技一体で需要家へのソリューション営業を展開し、既存市場の需要掘り起こしと新規市場の開拓を推進していく。当社は、従来より養殖金網や製紙向け等の用途開拓に加え、補強土壁「ハイパープレメッシュ」の需要家との共同開発など、数々の需要開拓を推し進めてきた。今後とも社会のニーズを踏まえた戦略的な商品を積極的に市場に投入し、公共事業を含めた一定の需要が期待できる建設向け、リピート性の高い製造業向け、他素材の代替を含めた農・畜産・水産業向け等を中心に拡販を展開していく。また、事業や業容の拡大を図っていく中で、必要に応じて資本提携等の検討も行っていく。さらに、海外の成長を取り込むべくグローバルな事業展開を行っており、中国とタイの拠点から世界各地域への輸出を推進している。
- ・当社は、環境面については「めっき技術で社会に貢献する」をキーワードに、耐食性の高い商品の提供を通じて、フェンスや養殖金網、獣害防護柵をはじめ、様々な需要家の製品の長寿命化やライフサイクルコストの削減、環境負荷の低減などに貢献している。また、管理体制面においては、業務効率化を推進するとともに、内部統制の充実及びコンプライアンスの徹底を図っていく所存である。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

- ・当社グループは、目標とする経営指標を減価償却前売上高営業利益率8%、同経常利益率10%、D/Eレシオ（有利子負債/自己資本）0.3倍以下としている。
当連結会計年度の減価償却前売上高営業利益率は10.7%（減価償却前営業利益3,299百万円）、同経常利益率は11.6%（同経常利益は3,582百万円）、D/Eレシオは0.2倍と目標値をそれぞれ達成した。なお、2021年3月期の業績予想については、新型コロナウイルス感染症の今後の動向並びに日本や世界の経済、ひいては需要業界に与える影響が未だ不透明であることから、合理的に算定することが困難とし、現時点では未定としている。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成

績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性がある」と認識している主要なリスクは、以下のとおりである。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものである。

(1) 規格の変更等について

当社グループは、規格の変更、新方式・新素材の採用等により販売環境が大きく変わり、当社グループの生産・販売活動に支障が生じる可能性がある。

(2) 原材料等の市場動向について

当社グループの事業に用いる原材料等の価格は、国際市況に連動していることから、原材料等の国際市況、外国為替相場、その他の各種市場動向が、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性がある。

(3) 固定資産減損損失について

当社グループの固定資産の時価が著しく低下した場合や事業の収益性が悪化した場合には、固定資産減損会計の適用により固定資産について減損損失が発生し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性がある。

(4) 株式・債券市場等の動向について

当社グループは、投資有価証券を運用していることから、市場の動向によっては、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性がある。

当社では、所有株式・債券について個別銘柄毎に取引・運用状況を検証し、投資先企業の業績や財務体質を踏まえた保有リスク、含み損益、投資リターン等を総合的に勘案し、継続保有や新規保有の適否の判断を行っている。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響について

当社グループは、2020年4月以降、需要の急激かつ大幅な落ち込みにより販売数量が減少し、一定規模の減産を余儀なくされている状況にある。分野別では、特に自動車向けや建築向けの影響が大きく、自動車業界では完成車メーカーの減産に伴う自動車部品メーカーの生産活動水準の悪化と在庫調整により、建築業界では建築工事の中止や延期、問屋での在庫調整により、各々需要の縮減を招いている。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向並びに日本や世界の経済、ひいては需要業界に与える影響が不透明であり現時点では予測できない状況となっているため、2021年3月期以降の当社グループの業績及び財政状態等に重要な影響を与える可能性がある。影響額については、現時点で合理的に算定することが困難である。

(6) 地震、津波及びその他の自然災害等について

当社グループは、地震、津波及びその他の自然災害等により、当社グループの生産・販売活動に支障が生じる可能性がある。

国内の製造拠点は関東と関西の二箇所に位置しているため、東西で一定程度生産・出荷のバックアップを図ることができる体制を整えている。システム関係については、本社(兵庫県尼崎市)の他に、千葉県内にサーバーを設置することによりリスクの分散化を図っている。

また、当社では、地震、津波、台風その他の自然災害等に備えた防災体制の強化や社員の災害対応力の向上を図るため、防災機器・設備の充実や防災対応マニュアルの整備・更新、定期的な初動対応訓練等を適宜行っている。

(7) 海外事業について

当社グループは、海外において生産・販売活動を行っているが、海外における政治・経済的混乱、疫病・テロといった社会的混乱、法的規制などにより、事業活動が制約される可能性がある。

当社では、当社や子会社の社長及び取締役が海外子会社・関連会社の取締役や董事長、総経理に就任するとともに、当該海外子会社・関連会社の経営上の重要事項やリスク等について月次会議等の場で適宜報告を求め必要な助言を行っている。さらには、当社において、2017年7月に「海外事業本部」を発足し、海外子会社・関連会社に対する当社の経営管理機能及び支援機能を強化している。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりである。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は上期と下期で大きく変化した。上期は中国経済の減速や米中貿易摩擦の影響により輸出が低迷したものの、個人消費や民間設備投資が堅調に推移し、日本経済は緩やかな回復を示した。一方で、下期に入り10 - 12月期のGDPが消費増税等の影響を受け前期比大幅な縮小を余儀なくされ、1 - 3月期も新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延によりマイナス成長が避けられず、日本経済は深刻な不況に陥る事態に直面した。

そうした経済動向の中、線材加工製品業界においては、自動車向け需要の減退や獣害防護柵に関する政府予算の縮小に見舞われ、下期には建築向け需要が急減した。こうした数量減に加え、コスト面では主原料価格の上昇が続くなど、市場環境は期を追う毎に一段と厳しさを増すことになった。

このような状況の中、当社グループは収益改善に向けて積極的に取り組んだ結果、財政状態及び経営成績は以下のとおりとなった。

a. 財政状態

当連結会計年度末の財政状態については、総資産は64,529百万円と前連結会計年度末に比べ1,935百万円の減少、負債合計は18,548百万円と前連結会計年度末に比べ1,969百万円の減少、純資産合計は45,981百万円と前連結会計年度末に比べ34百万円の増加となった。

b. 経営成績

当連結会計年度の経営成績については、売上高は30,939百万円と前期に比べ308百万円（1.0%）の微減、営業利益は1,750百万円と前期に比べ589百万円（50.8%）の増益、経常利益は2,033百万円と前期に比べ511百万円（33.6%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は384百万円と前期に比べ595百万円（60.8%）の減益となった。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりである。

また、セグメント利益は、営業利益ベースの数値である。

普通線材製品

普通線材を素材とした各種めっき鉄線、また、めっき鉄線を素線とした加工製品からなり、公共土木向けのかご、落石防護網及び民間向けの各種フェンス等に使用されている。

売上高は、国内の販売数量が増加し平均販価が改善したものの、海外子会社の解散に伴う販売数量減により、10,001百万円と前期に比べ301百万円（2.9%）の減収となった。

セグメント利益は、海外子会社の解散影響に加え、販価改善やコスト削減等の収益改善により、895百万円と前期に比べ306百万円（52.0%）の増益となった。

特殊線材製品

特殊線材を素材とした硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープ等からなり、自動車向け、電力通信向け及び公共土木向け等、多岐に渡って使用されている。

売上高は、販売価格が改善したものの、自動車向け及び鋼索分野等の販売数量が減少したことにより、14,710百万円と前期に比べ367百万円（2.4%）の減収となった。

セグメント損失は、販価改善やコスト削減等の収益改善を主原料価格の上昇によるコスト増や減産影響が上回ったことにより、74百万円と前期に比べ245百万円（前期は171百万円の利益）の減益となった。

鉚螺線材製品

鉚螺線材を素材としたトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト及びGNボルト等からなり、主として建築向けに使用されている。

売上高は、販売数量が減少したものの、販売価格の改善により、5,442百万円と前期に比べ333百万円（6.5%）の増収となった。

セグメント利益は、販価改善や増産効果、コスト削減等の収益改善が主原料価格の上昇によるコスト増を上回ったことにより、759百万円と前期に比べ453百万円（148.1%）の大幅増益となった。

不動産賃貸

主に賃貸用不動産を所有・経営している。

売上高は、大阪市に建設した倉庫の賃貸を開始したことにより、210百万円と前期に比べ74百万円（54.6%）の増収となり、セグメント利益は153百万円と前期に比べ67百万円（79.7%）の増益となった。

その他

めっき受託加工及び副産物の売上高は573百万円と前期に比べ46百万円（7.6%）の減収となった。

セグメント利益は16百万円と前期に比べ7百万円（88.3%）の増益となった。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、7,741百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,033百万円（20.8%）の減少となった。なお、当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりである。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、2,251百万円となり、前期に比べ879百万円（28.1%）の減少となった。これは主に、関係会社整理損失引当金の増減額の減少への転換、たな卸資産の増減額の増加への転換、災害による保険金受取額の減少、税金等調整前当期純利益の減少、その他固定資産の増減額の増加への転換、法人税等の支払額の増加、災害損失の支払額の増加が投資有価証券評価損の計上、売上債権の増減額の減少への転換、仕入債務の増加額の増加、貸倒引当金の減少額の減少、有価証券売却益の減少を上回ったことによるものである。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2,513百万円となり、前期に比べ2,014百万円（403.9%）の増加となった。これは主に、投資有価証券の取得による支出の増加、有形固定資産の取得による支出の増加、有価証券の売却による収入の減少、投資有価証券の売却による収入の減少が無形固定資産の取得による支出の減少を上回ったことによるものである。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,761百万円となり、前期に比べ1,108百万円（169.6%）の増加となった。これは主に、長期借入金返済による支出の増加が長期借入れによる収入、短期借入金の純増減額の増加への転換、配当金の支払額の減少を上回ったことによるものである。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
普通線材製品	7,147,248	6.8
特殊線材製品	12,507,231	1.2
鉸螺線材製品	3,521,650	16.2
その他	240,497	3.5
合計	23,416,627	0.7

（注）1．金額は、製造原価によっている。
2．上記の金額には、消費税等は含まれていない。

b. 受注実績

当社グループは原則として需要状況を勘案した見込生産を行っているため、該当事項なし。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりである。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
普通線材製品	10,001,126	2.9
特殊線材製品	14,710,804	2.4
鋳螺線材製品	5,442,344	6.5
不動産賃貸	210,841	54.6
その他	573,997	7.6
合計	30,939,114	1.0

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社メタルワン 鉄鋼製品販売	3,317,257	10.6	3,348,771	10.8

2. 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりである。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものである。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は、品種構成の好転を含めた販売価格の改善を推し進めた。しかしながら、海外子会社の解散を含めて販売数量が減少したことにより、30,939百万円と前期に比べ308百万円(1.0%)の微減となった。

営業利益は、主原料コストが上昇したものの、販価改善やコスト削減の推進により、営業利益は1,750百万円と前期に比べ589百万円(50.8%)の増益となった。

経常利益は、有価証券売却益等の営業外収益が減少したものの、2,033百万円と前期に比べ511百万円(33.6%)の増益となった。

特別利益は、災害による保険金収入の減少等により、前期に比べ601百万円減少となった。

特別損失は、関係会社整理損失引当金繰入額及び災害による損失等が減少したものの、投資有価証券評価損等を計上したことにより、前期に比べ354百万円増加の1,441百万円となった。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は、前期に比べ444百万円減少の642百万円となった。また、税効果による法人税等調整額を含む税金費用は、前期に比べ263百万円増加し、非支配株主に帰属する当期純利益は112百万円減少した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、384百万円と前期に比べ595百万円(60.8%)の減益となった。

セグメント別の経営成績は、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載している。

なお、当社グループは、2020年4月以降、需要の急激かつ大幅な落ち込みにより販売数量が減少し、一定規模の減産を余儀なくされている状況にある。分野別では、特に自動車向けや建築向けの影響が大きく、自動車業界では完成車メーカーの減産に伴う自動車部品メーカーの生産活動水準の悪化と在庫調整により、建築業界では建築工事の中止や延期、問屋での在庫調整により、各々需要の縮減を招いている。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向並びに日本や世界の経済、ひいては需要業界に与える影響が不透明であり現時点では予測できない状況となっているため、2021年3月期以降の当社グループの業績及び財政状態等に重要な影響を与える可能性がある。影響額については、現時点で合理的に算定することが困難である。

b. 財政状態の分析

(資産の部)

当連結会計年度末の総資産は64,529百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,935百万円の減少となった。

流動資産は32,599百万円となり、前連結会計年度末に比べ636百万円の減少となった。これは主に現金及び預金の減少が、有価証券と電子記録債権の増加を上回ったことによるものである。

固定資産は31,929百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,299百万円の減少となった。これは主に投資有価証券の減少によるものである。

(負債の部)

当連結会計年度末の負債合計は18,548百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,969百万円の減少となった。

流動負債は11,572百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,345百万円の減少となった。これは主に1年内返済予定の長期借入金の減少によるものである。

固定負債は6,976百万円となり、前連結会計年度末に比べ376百万円の増加となった。これは主に長期借入金の増加によるものである。

(純資産の部)

当連結会計年度末の純資産合計は45,981百万円となり、前連結会計年度末に比べ34百万円の増加となった。

この結果、自己資本比率は66.8%となった。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの分析については、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載している。

当社グループの資金需要の主なものは、原材料の購入、設備投資等によるものである。

当社グループは、事業の運営に必要な資金については、自己資金を活用するとともに、銀行等金融機関からの借入により調達している。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されている。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは、合理的な基準に基づいて実施している。詳細については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項」に記載のとおりであるが、特に以下の事項は連結財務諸表作成における重要な見積り判断に大きな影響を及ぼすと考えている。

(固定資産の減損処理)

当社グループは、固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上している。減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定に当たっては慎重に検討しているが、将来計画や市場環境の変化により、その見積り額の前提とした条件や仮定に変更が生じ減少した場合、減損処理が必要となる可能性がある。

(繰延税金資産の回収可能性)

当社グループは、繰延税金資産について、将来計画に基づいた課税所得が十分に確保できることや、回収可能性があると判断した将来減算一時差異について繰延税金資産を計上している。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じ減少した場合、繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性がある。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 追加情報」に記載のとおりである。

4 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、新たに締結した経営上の重要な契約等はない。

5 【研究開発活動】

当社グループを取り巻く市場環境は益々競争が激化しており、商品・技術開発、品質・プロセス改善、新規需要開拓及び諸コスト低減等のニーズが増大している状況にある。

普通線材製品、特殊線材製品、鋳螺線材製品に関するこうしたニーズに応えるべく、生産技術部が主体となって、研究開発活動を推進している。

当連結会計年度の研究開発費の総額は、34百万円である。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、経営基盤の強化を図るため、1,469百万円の設備投資を実施した。

主な投資には、提出会社において、茨城工場の伸線機3号機更新110百万円及び伸線機4号機更新75百万円がある。

ジェイ・ワイテックス㈱において、台風被害による屋根復興工事310百万円及び特殊線材製品に関するめっき塗布鋼線生産能力増強工事（第二期）183百万円がある。

なお、重要な設備の除却又は売却はない。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりである。

(1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
本社 (兵庫県尼崎市)	全社(共通)	事務所	128,126	-	1,765 (1,617.00)	12,272	142,164	56
本社工場 (兵庫県尼崎市)	普通線材製品 特殊線材製品 全社(共通)	普通線材製品 特殊線材製品 生産設備 その他付帯設備	1,278,012	916,129	808,225 (69,920.91) [10,640.38]	33,747	3,036,115	180
茨城工場 (茨城県北茨城市)	普通線材製品 鉸螺線材製品	普通線材製品 鉸螺線材製品 生産設備 その他付帯設備	248,148	325,197	790,390 (37,484.16)	33,619	1,397,355	36
その他	不動産賃貸	賃貸用不動産	710,851	-	1,343,296 (8,065.46)	-	2,054,148	-

(2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
ジェイ・ワイ テックス㈱	本社・第一事業所 (大阪府貝塚市)	特殊線材製品	特殊線材製品 生産設備	559,555	388,398	2,201,281 (54,324.69)	7,952	3,157,187	158
	第二事業所 (大阪府貝塚市)	特殊線材製品	特殊線材製品 生産設備	433,764	455,450	1,260,931 (24,391.04)	21,021	2,171,169	97
	関東事業所 (栃木県宇都宮市)	特殊線材製品	特殊線材製品 生産設備	125,955	86,249	1,141,185 (28,738.11)	6,604	1,359,995	99
滋賀ポルト㈱	本社工場 (滋賀県甲賀市)	鉸螺線材製品	鉸螺線材製品 生産設備	94,442	247,974	380,000 (48,925.73)	3,668	726,086	34
太陽メッキ㈱	本社工場 (大阪市東成区)	その他	生産設備	26,369	9,854	608,473 (2,203.78)	79	644,776	14

(3) 在外子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物 (面積㎡)	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
天津天冶日亜鋼業 有限公司	中華人民共和国 天津市	普通線材製品	普通線材製品 生産設備	3,591	241,278	- [8,661.00]	7,881	252,752	1
烟台基威特鋼線製品 有限公司	中華人民共和国 烟台市	特殊線材製品	特殊線材製品 生産設備	7,103 [8,651.1]	341,699	-	1,035	349,838	40

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であり、建設仮勘定は含んでいない。なお、金額には消費税等を含めていない。

2. 帳簿価額は、減損損失計上後の金額である。

3. 土地には、全面時価評価法による評価差額が含まれている。

4. 提出会社の[外書]は、連結会社以外からの賃借設備であり、主なものは工場用地で年間賃借料は26,200千円である。

5. 在外子会社の[外書]は、連結会社以外からの賃借設備であり、主なものは工場建屋及び用地で年間賃借料は35,250千円である。

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等
特記すべき重要な事項はない。
- (2) 重要な設備の除却等
特記すべき重要な事項はない。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	117,243,000
計	117,243,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	51,755,478	51,755,478	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株である。
計	51,755,478	51,755,478		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

【ライツプランの内容】

該当事項なし。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2008年4月1日～ 2009年3月31日 (注)	300,000	51,755,478		10,720,068		10,888,032

(注) 会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却による減少

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		24	28	143	45		3,464	3,704	
所有株式数(単元)		122,710	2,233	219,805	36,950		135,236	516,934	62,078
所有株式数の割合(%)		23.7	0.4	42.5	7.1		26.2	100.0	

(注) 1. 自己株式3,357,782株は、「個人その他」欄に33,577単元及び「単元未満株式の状況」欄に82株含めて記載している。

2. 上記「その他の法人」欄には、証券保管振替機構名義の株式が13単元含まれている。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本製鉄株式会社	東京都千代田区丸の内2-6-1	11,674	24.12
日亜興産株式会社	大阪市中央区東心斎橋2-1-3	3,575	7.39
日亜鋼業取引先持株会	兵庫県尼崎市中浜町19	2,497	5.16
株式会社池田泉州銀行	大阪市北区茶屋町18-14	2,040	4.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,974	4.08
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	180 MAIDEN LANE, NEW YORK, NEW YORK 10038 U.S.A (東京都港区港南2-15-1)	1,867	3.86
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,845	3.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,401	2.90
日亜鋼業従業員持株会	兵庫県尼崎市中浜町19	1,087	2.25
株式会社みなと銀行	兵庫県神戸市中央区三宮町2-1-1	1,008	2.08
計		28,972	59.86

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式3,357千株がある。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりである。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 1,974千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 1,401千株

3. 大株主は、2020年3月31日現在の株主名簿に基づくものである。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから2018年4月16日付で関東財務局長に提出された変更報告書により、2018年4月9日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けているが、当社として2020年3月31日における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況では考慮していない。

大量保有報告書の内容は以下のとおりである。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,845	3.57
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	568	1.10
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町1-12-1	86	0.17

野村アセットマネジメント株式会社から2016年10月6日付で関東財務局長に提出された変更報告書により、2016年9月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年3月31日における実質所有株式数の確認ができないので、上記大株主の状況では考慮していない。

大量保有報告書の内容は以下のとおりである。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋1-12-1	3,116	6.02

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,357,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 48,335,700	483,357	
単元未満株式	普通株式 62,078		
発行済株式総数	51,755,478		
総株主の議決権		483,357	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株(議決権13個)含まれている。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が82株含まれている。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日亜鋼業(株)	尼崎市中浜町19番地	3,357,700		3,357,700	6.50
計		3,357,700		3,357,700	6.50

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項なし。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項なし。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	375	117,561
当期間における取得自己株式	7	1,593

(注) 当期間における取得自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれていない。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	3,357,782		3,357,789	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれていない。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、各期の業績、配当性向及び株主資本の状況等を総合的に勘案しながら、安定的な配当を継続することを基本方針としている。

また、配当にあたっては中間と期末の年2回の実施を基本としている。

当事業年度は、中間配当において1株につき3円の普通配当を実施し、期末配当については、1株につき3円(1株当たり年間配当金6円)とすることを決定した。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会である。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めている。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりである。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年11月12日 取締役会決議	145	3
2020年6月26日 定時株主総会決議	145	3

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営及び業務運営の監督機能として、監査役の監査機能、社外取締役の監督機能、業務分掌による牽制機能などを有効かつ最大限に発揮することに努めるとともに、適時開示を徹底することにより、経営の健全性、公平性、透明性を確保し、株主や取引先をはじめとするすべてのステークホルダーの負託と信頼に応えて、当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図っている。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、当社の事業に精通した業務執行取締役と独立した立場の社外取締役から構成される取締役会が経営の基本方針及び重要な業務の執行に関する決定並びに取締役による職務執行の監督を行うとともに、法的に強い権限を有する監査役が取締役会に出席し、公正不偏の態度及び独立した立場から取締役等の職務執行を監査する体制が、経営の効率性と公正性を確保し当社の健全で持続的な成長に有効であると判断し、監査役会設置会社制度を採用している。

当社は、当社事業に精通した常勤監査役と各分野における豊富な経験や高い識見を有する社外監査役が、取締役等の職務の執行状況や会社の財産の状況等を監査している。社外監査役のうち1名は公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者である。監査役は、内部監査部門（監査室）や会計監査人との間で定期的に会合を開催し情報・意見交換を行い、適切かつ緊密に連携・協力する体制を採っている。

また、当社は、取締役会における多様な視点からの意思決定と経営の監督機能の充実を図るため、企業経営等に関する豊富な経験や高い識見を有する社外取締役を置いている。

現在、当社の取締役会には、8名の業務執行取締役に加えて、1名の社外取締役と3名の監査役（内、社外監査役2名）が出席し、経営の健全性を確保している。

取締役会は原則月1回開催しており、緊急を要する場合は臨時取締役会を適宜開催し、経営環境の急速な変化にも対応できる体制をとっている。

また、任意の仕組みとして、経営会議を設置し、取締役会付議事項の事前審議のほか、経営上の重要事項等について審議・報告を行うとともに、業務執行状況の報告及び議論の場として、月次報告会、販売会議、生産・技術会議等を設け、月次単位での業績管理を行っている。さらに、コンプライアンス委員会を設置し、横断的なリスクの状況の監視及び全社的対応を行うとともに、内部通報に関わる適切な体制も整備している。これらの会議体には、すべて常勤監査役が出席している。加えて、当社では、社長及び取締役管理本部長が、社外取締役、監査役と定期的に会合を開催し、経営全般に関わる情報交換及び認識の共有を図っている。

当社は、東京証券取引所が定める独立性基準に基づき、独立社外取締役及び独立社外監査役を選任している。

独立社外取締役の中谷吉朗と当社との間で特別な利害関係はない。

独立社外監査役の大西信彦と当社との間で特別な利害関係はない。

社外監査役の越川和弘は日本製鉄㈱の執行役員である。当社は商社を通じ同社より原材料を購入しているほか、同社に対し当社製品を少量販売している。また、同社は当社の主要株主である。

当社と社外取締役及び社外監査役全員は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結している。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額である。

当社の取締役は13名以内とし、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めている。また、自己株式の取得について、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めている。

当社は、株主総会を円滑に運営することを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めている。

当社は、中間配当について、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的に、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めている。

企業統治に関するその他の事項

当社は、「日亜鋼業グループ企業理念」及び「日亜鋼業グループ社員行動指針」に基づき、企業価値の継続的な向上を図りつつ、公正かつ社会から信頼される企業の実現を目指す。また、関連法規を遵守し、財務報告の信頼性と業務の有効性・効率性を確保するため、次のとおり内部統制システムを整備し、適切に運用するとともに、その継続的改善に努める。

- () 当社の取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 -) 取締役会は、「取締役会規程」等に基づき、経営上の重要事項について決定を行い、又は報告を受ける。
 -) 業務を執行する取締役（業務執行取締役）は、取締役会における決定事項に基づき、各々の管掌業務に応じて職務執行を行い、使用人の職務執行を監督するとともに、その状況を取締役に報告する。
 -) 法令及び規程等を遵守し、適正に職務を行うことを、使用人に対して周知・徹底する。法令違反行為等があった場合は、「職員就業規則」に基づき適切に対処する。
 -) 「コンプライアンス委員会」の設置・運営を通じて、当社におけるコンプライアンスの取り組みを横断的に統括し、コンプライアンス体制の充実を図る。
 -) 「内部通報規程」を制定し、不正行為等の早期発見と是正を図り、コンプライアンス体制を強化する。
 -) 監査室は、各部門に対して「内部監査規程」に基づき、法令及び社内規程の遵守状況並びに業務の効率性等の監査を実施し、その結果を「コンプライアンス委員会」に報告する体制を確立する。
 -) 反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、毅然とした態度で対応する。
- () 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 -) 業務執行取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理については、「文書取扱規程」「文書保存処分取扱細則」に従い、保存場所を定め、管理を行う。
 -) 取締役及び監査役は、「文書取扱規程」「文書保存処分取扱細則」により、常時これらの文書等を閲覧できるものとする。
- () 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 -) 「リスク管理規程」をはじめリスク管理にかかわる諸規程を制定する。
 -) 「コンプライアンス委員会」を設置し、横断的なリスクの状況の監視並びに全社的対応を行う。各部門所管業務に付随するリスク管理は、各本部毎に統括する本部長が責任者となり執り行うこととする。
 -) 「安全衛生委員会」において、安全教育及び毎月2回の安全パトロール等の実施により、リスクの未然防止を図る。
 -) 各部門が毎月実施する「自主点検」の結果を基に、監査室が内部統制の有効性を検証する。
 -) 財務報告の正確性と信頼性を確保するために、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、リスクの評価を行い、統制活動の実施状況を定期的に確認する。
- () 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 -) 「取締役会規程」「経営会議規程」「組織規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」等を基に、適切かつ効率的に職務の執行が行われる体制を構築する。
 -) 経営上の重要事項については、経営会議の審議を経て、原則月1回開催される取締役会において執行決定を行う。
 -) 取締役会において決定した経営計画に基づき、取締役会、月次報告会、販売会議、生産・技術会議において月次単位で業績管理を行う。
- () 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社及び子会社は、「日亜鋼業グループ企業理念」及び「日亜鋼業グループ社員行動指針」に基づき、各社の事業特性を踏まえつつ、事業戦略を共有し、グループ一体となった経営を行う。

また、当社及び子会社の取締役、使用人等が遵守すべきものとして、「コンプライアンス規程」を制定する。

子会社は、当社との情報の共有化等を行い、内部統制に関する施策の充実を図るとともに、当社は、子会社の内部統制の状況を確認し、必要に応じ改善のための支援を行う。

これに基づく具体的な体制は以下のとおりとする。

イ．子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、子会社における経営計画、重要な経営方針、決算等、当社の連結経営上又は子会社の経営上の重要事項について、子会社に対し報告を求めるとともに、助言等を行う。

ロ．子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ） 当社は、重要な子会社における財務報告の正確性と信頼性を確保するために、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、リスクの評価を行い、統制活動の実施状況を定期的に確認する。
- ） 当社は、子会社におけるリスク管理状況について、子会社に対し報告を求めるとともに、助言等を行う。

ハ．子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ） 当社は、子会社に対し効率的な職務執行のための助言等を行う。
- ） 当社は、子会社の業績評価を行うとともに、マネジメントに関する支援を行う。

二．子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ） 当社は、子会社における法令遵守及び内部統制の整備・運用状況について、子会社に対し報告を求めるとともに、必要な支援・助言等を行う。
 - ） 子会社が実施する「自主点検」の結果を基に、当社の監査室が内部統制の有効性を検証する。
 - ） 「安全衛生委員会」「コンプライアンス委員会」等を通じて、グループにおける横断的な取り組みを行い、情報の共有化を図る。
- () 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項
- ） 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合については、当該職務に係る部署において、所属長は使用人を任命し、その職務の補助を行える体制を構築する。
 - ） 任命を受けた使用人は、取締役から独立し監査役の指示の下で業務を行う。
- () 当社の監査役への報告に関する体制並びに当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- ） 当社の経営会議、コンプライアンス委員会、月次報告会、販売会議、生産・技術会議に監査役が出席し、付議又は報告事項について情報を共有する。
 - ） 当社の取締役及び使用人等は、職務執行の状況、経営に重要な影響を及ぼす事実等の重要事項について、適時・適切に監査役又は監査役会に直接又は関係部門を通じて報告するとともに、内部統制システムの運用状況等の経営上の重要事項についても、監査役と情報を共有する。
 - ） 子会社の取締役、監査役、使用人等は、子会社における職務執行の状況、経営に重要な影響を及ぼす事実等の重要事項について、適時・適切に当社の監査役又は監査役会に直接又は関係部門を通じて報告する。
 - ） 当社は、監査役又は監査役会に上記)又は)の報告を行った者に対し、内部通報規程等に基づき、報告をしたことを理由とする不利な取扱いを禁止する。
 - ） 監査室は、監査実施状況を監査役又は監査役会に報告する体制を構築する。
- () 当社の監査役等の職務の執行について生ずる費用等の処理に係る方針に関する事項
- 監査役が職務の執行について生ずる費用等の請求をしたときは、当該監査役等の職務の執行に必要でないと思われた場合を除き、速やかに当該費用等の償還請求に応じる。
- () その他当社の監査役等の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ） 監査役は、代表取締役社長と定期的に意見交換を実施する。
 - ） 監査役は、会計監査人と円滑に連携できる体制を構築する。
 - ） 監査役は、監査室と適時・適切に情報交換を行うとともに、連携して監査を行う。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
代表取締役社長	国 峰 淳 (1955年10月29日生)	1978年4月 新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 2000年7月 同社釜石製鐵所総務部長 2003年7月 同社東北支店長 2005年4月 日鐵建材工業(株)(現 日鐵建材(株)) 企画財務部担当部長(出向) 2008年6月 同社取締役(企画財務部長委嘱) 2008年12月 新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))退社 2011年6月 日鐵住金建材(株)(現 日鐵建材(株))常務取締役(企画財務、 営業管理に関する事項管掌、台湾プロジェクト推進班長 委嘱) 2013年6月 同社常務取締役(建築商品事業部門長委嘱、営業管理に 関する事項管掌) 2014年4月 当社顧問 2014年6月 日鐵住金建材(株)(現 日鐵建材(株))常務取締役退任 2014年6月 当社代表取締役社長(現在)	(注) 4	46
代表取締役副社長	大 西 利 典 (1963年2月25日生)	1986年4月 新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 2011年4月 同社薄板事業部部長 2012年10月 新日鐵住金(株)(現 日本製鐵(株))薄板事業部薄板企画部長 2015年4月 同社薄板事業部薄板営業部長 2017年4月 同社参与(大阪支社副支社長委嘱) 2018年4月 同社執行役員(大阪支社副支社長委嘱) 2019年4月 日本製鐵(株)執行役員(チタン事業部長委嘱) 2020年4月 同社執行役員(社長付) 2020年4月 当社顧問 2020年6月 日本製鐵(株)退社 2020年6月 当社代表取締役副社長(現在)	(注) 5	
常務取締役 (製造本部及び技術本部管掌)	寺 前 昭 (1957年1月29日生)	1981年4月 新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 1997年4月 同社光製鐵所ステンレス線材工場長 2003年9月 同社退社 2003年10月 新日鐵住金ステンレス(株)(現 日鉄ステンレス(株)) 棒線工場長 2006年6月 鈴木金属工業(株)(現 日鉄SGワイヤ(株)) 生産技術本部生産技術部担当部長(出向) 2009年6月 同社執行役員(出向) 2010年3月 新日鐵住金ステンレス(株)(現 日鉄ステンレス(株))退社 2010年4月 鈴木金属工業(株)(現 日鉄SGワイヤ(株))執行役員 2010年4月 鈴木住電ステンレス(株)常務執行役員(出向) 2013年6月 鈴木金属工業(株)(現 日鉄SGワイヤ(株))退社 2013年6月 当社取締役製造本部長 2013年7月 当社取締役製造本部長兼設備部長 2015年4月 当社常務取締役製造本部長兼設備部長 2016年10月 当社常務取締役製造本部及び技術本部管掌 製造本部長兼設備部長 2020年6月 当社常務取締役製造本部及び技術本部管掌(現在)	(注) 4	25
取締役 (TSN Wires Co.,Ltd. 取締役副社長)	寺 川 齊 貴 (1962年5月7日生)	1985年4月 神戸信用金庫入庫 1991年9月 同信用金庫退庫 1991年10月 当社入社 1998年4月 当社名古屋営業所長 2000年7月 当社経理部長 2002年12月 当社線材製品・板販売部長 2008年1月 当社営業本部長 2008年6月 当社取締役営業本部長 2012年4月 当社取締役(現在) 2012年5月 TSN Wires Co., Ltd.取締役副社長(現在)	(注) 4	69
取締役 (製造本部長兼設備部長)	高 間 敏 夫 (1964年2月5日生)	1989年4月 当社入社 2002年4月 当社研究開発部長 2005年7月 当社経理部部長 2006年10月 当社技術企画部長 2009年6月 当社取締役技術本部長兼技術企画部長兼品質保証部長 2011年11月 当社取締役技術本部長兼技術企画部長 2014年10月 当社取締役技術本部長 2019年10月 当社取締役技術本部長兼品質保証部長 2020年6月 当社取締役製造本部長兼設備部長(現在)	(注) 4	56

役職名	氏名 (生年月日)	略歴		任期	所有 株式数 (千株)
取締役 (営業本部長)	道盛 武彦 (1958年8月16日生)	1977年4月 1995年10月 1999年12月 2012年4月 2012年6月 2012年10月 2017年4月 2017年12月 2019年4月	当社入社 当社北陸営業所長 当社名古屋営業所長 当社営業本部長兼特線販売部長 当社取締役営業本部長兼特線販売部長 当社取締役営業本部長兼特線材製品販売部長 当社取締役営業本部長 当社取締役営業本部長兼営業統括企画部長 当社取締役営業本部長(現在)	(注)4	52
取締役 (管理本部長兼海外事業本部長)	沖垣 佳宏 (1962年12月26日生)	1985年4月 1998年7月 2006年8月 2008年7月 2012年10月 2014年4月 2014年6月 2017年12月 2018年1月 2018年7月 2020年3月	新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 同社名古屋製鐵所労働部労政・人事グループリーダー 同社薄板営業部薄板第二グループマネジャー 同社名古屋支店薄板グループリーダー 新日鐵住金(株)(現 日本製鐵(株))名古屋支店薄板室長 当社顧問(出向) 当社取締役管理本部長(出向) 新日鐵住金(株)(現 日本製鐵(株))退社 当社取締役管理本部長 当社取締役管理本部長兼海外事業本部長兼総務部長 当社取締役管理本部長兼海外事業本部長(現在)	(注)4	23
取締役 (技術本部長兼品質保証部長)	後藤田 英昭 (1964年7月1日生)	1989年4月 2000年11月 2002年10月 2003年10月 2006年2月 2010年4月 2016年4月 2020年3月 2020年4月 2020年6月	新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 同社君津製鐵所製鋼部鋼片管理グループリーダー 同社君津製鐵所製鋼部製鋼技術グループリーダー 兼鋼片管理グループリーダー 同社君津製鐵所製鋼部第一製鋼工場長 同社君津製鐵所製鋼部鋼片管理グループリーダー 同社君津製鐵所線材工場線材管理グループリーダー 新日鐵住金(株)(現 日本製鐵(株))君津製鐵所線材部長 日本製鐵(株)退社 当社顧問 当社取締役技術本部長兼品質保証部長(現在)	(注)5	
取締役	中谷 吉朗 (1960年2月5日生)	1983年4月 1999年1月 2004年5月 2006年5月 2008年5月 2012年3月 2012年4月 2012年7月 2019年7月 2020年3月 2020年6月	(株)三和銀行(現 (株)三菱UFJ銀行)入行 同行京都支店次長 (株)UFJ銀行(現 (株)三菱UFJ銀行)大阪法人営業第4部長 (株)三菱東京UFJ銀行(現 (株)三菱UFJ銀行)今里支社長 同行阿倍野橋支社長 同行退行 朝日ウッドテック(株)管理部長 当社取締役管理部長 同社内部監査室長 同社退社 当社取締役(現在)	(注)5	
常勤監査役	下徳 弘幸 (1951年12月18日生)	1970年3月 1996年4月 2004年4月 2005年3月 2005年6月 2014年6月	当社入社 当社経理部長兼システム部長 当社管理本部副本部長兼経理部長 当社管理本部長 当社取締役管理本部長 当社常勤監査役(現在)	(注)6	47
監査役	大西 信彦 (1958年6月27日生)	1985年9月 1989年3月 1989年8月 2002年6月 2002年7月 2017年6月	監査法人誠和会計事務所(現 有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 税理士登録 監査法人誠和会計事務所(現 有限責任監査法人トーマツ)退所 大西公認会計士事務所開設(現在) 当社監査役(現在)	(注)6	
監査役	越川 和弘 (1961年8月10日生)	1986年4月 2004年4月 2007年4月 2009年4月 2013年4月 2017年4月 2018年4月 2019年4月 2019年6月	新日本製鐵(株)(現 日本製鐵(株))入社 同社薄板事業部薄板営業部薄板企画グループリーダー 同社薄板事業部薄板営業部薄板第二グループリーダー 同社広畑製鐵所工程業務部長 新日鐵住金(株)(現 日本製鐵(株))薄板事業部電磁鋼板営業部長 同社参与(名古屋支店長委嘱) 同社執行役員(名古屋支店長委嘱) 日本製鐵(株)執行役員(棒線事業部長委嘱)(現在) 当社監査役(現在)	(注)7	
計					320

- (注) 1. 取締役中谷吉朗は、社外取締役である。
2. 監査役大西信彦及び越川和弘は、社外監査役である。
3. 取締役中谷吉朗及び監査役大西信彦は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ている。
4. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
5. 2020年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
6. 2020年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
7. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

社外役員の状況

当社の社外取締役は1名であり、取締役中谷吉朗と当社との間には特別な利害関係はない。

当社の社外監査役は2名であり、監査役大西信彦及び越川和弘と当社との間には特別な利害関係はない。

当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための会社からの独立性に関する基準又は方針を定めていないものの、東京証券取引所が定める独立性基準に基づき社外取締役及び社外監査役を選任している。

社外取締役中谷吉朗は、他企業の役員に就任し経営者としての豊富な経験を有している。同氏が当社取締役会の意思決定の適正性に対するチェック機能や取締役の業務執行に対する監督機能を適切に果たし、当社のコーポレートガバナンスの一層の強化に十分貢献しうると判断し、社外取締役として選任している。

社外監査役大西信彦は、公認会計士並びに税理士の資格を有しており、財務及び会計の専門的見地から決算のあり方並びに財務報告に関する適正性について助言を得るうえで適任であると判断し、社外監査役として選任している。

社外監査役越川和弘は、会社経営に関する高い見識を活かし、当社経営全般について助言を得るため、社外監査役として選任している。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社は、当社事業に精通した常勤監査役と各分野における豊富な経験や高い識見を有する社外監査役が、当社の会計監査人、内部監査部門（監査室）と適切に連携し、取締役等の職務の執行状況や会社の財産の状況等を監査している。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社の監査役会は、常勤監査役1名と社外監査役2名で構成され、原則月1回開催されている。社外監査役のうち1名は公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務・会計・税務に関する相当程度の知見を有する者である。

当事業年度において当社は監査役会を13回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりである。

役職名	氏名	開催回数	出席回数
常勤監査役	下徳 弘幸	13	13
社外監査役	大西 信彦	13	13
社外監査役	越川 和弘	10	9
社外監査役	松岡 弘明	3	2

(注)社外監査役の越川和弘は、社外監査役の松岡弘明の後任として、2019年6月27日開催の第67回定時株主総会後に就任しているため、開催回数が異なっている。

監査役会における主な検討事項として、監査の方針及び監査実施計画、内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性等である。

また、常勤の監査役の活動として、取締役等との意思疎通、取締役会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧、本社及び主要な事業所における業務及び財産の状況の調査をしている。子会社については、子会社の取締役及び監査役等との意思疎通及び情報交換や子会社からの事業報告の確認、会計監査人からの監査実施状況及び結果報告の確認を行っている。

内部監査の状況

当社における内部監査は、内部監査部門（監査室）が、各部門に対して「内部監査規程」に基づき、法令及び社内規程の遵守状況並びに業務の効率性等の監査を実施している。また、財務報告の正確性と信頼性を確保するために、「財務報告に係る内部統制基本方針」に基づき、リスクの評価を行い、統制活動の実施状況を定期的に確認している。

内部監査実施状況については、内部監査部門（監査室）が監査役及び監査役会並びに「コンプライアンス委員会」に報告している。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

1975年以降

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 浅井 愁星

指定有限責任社員 業務執行社員 安田 智則

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、その他3名である。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定及び再任にあたっては、職務の遂行に関する独立性と専門性、及び職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制、監査報酬水準、監査活動の状況、監査品質、監査報告の相当性等を基準に総合的に評価した上で判断している。

また、当社監査役会は、会社法第340条第1項各号に定める監査役会による会計監査人の解任のほか、原則として、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、「会計監査人の解任又は不再任」に関する議案を決定し、当社取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提案する。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社監査役及び監査役会の監査法人に対する評価にあたっては、会計監査人が独立の立場を保持し、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めた。

また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めた。

その結果、会計監査人の有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めた。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	36	1	36	
連結子会社	18	2	18	1
計	54	3	54	1

当社及び連結子会社における非監査業務の内容は、関係会社への財務情報調査業務である。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a.を除く）

該当事項なし。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項なし。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はないが、監査日程等を勘案した上で決定している。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、会計監査人の報酬見積りについて妥当性を検証した結果、必要な法定監査を行う上で適正な範囲内にあると判断している。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

役員の報酬は、報酬部分と賞与部分によって構成され、求められる能力及び責任に見合った水準を勘案して常勤・非常勤別、役位別に基準額を定め、これを会社業績等に応じて変動させ、株主総会で承認を得た限度額の範囲内で、報酬額を決定している。

上記の方針を踏まえた各取締役の報酬額の決定に当たっては、取締役会において代表取締役社長に一任しており、代表取締役社長は人事担当の取締役と協議の上決定している。また、各監査役の報酬については、監査役の協議により決定している。

取締役の報酬限度額は、1991年6月27日開催の第39回定時株主総会において月額1,500万円以内と決議されている。なお、当時の取締役の員数は10名である。

監査役の報酬限度額は、1991年6月27日開催の第39回定時株主総会において月額250万円以内と決議されている。なお、当時の監査役の員数は3名である。

役員の退職慰労金は、当社における一定の基準に従い、相当額の範囲内で退職慰労金を支給することとし、取締役分については取締役会の決議に、監査役分については監査役の協議に、それぞれ一任することを株主総会において決議している。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	133	113		19	7
監査役 (社外監査役を除く。)	10	9		1	1
社外役員	11	9		2	4

(注) 退職慰労金は、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金の繰入額である。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していない。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、主として株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受ける目的で保有する株式を純投資目的である投資株式に区分し、それ以外の保有する株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分している。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、製品販売や主副原料購入、金融等に関わる取引関係の維持・強化及び円滑な事業活動の推進等を通じた当社の中長期的な企業価値の向上を目的として、政策保有株式を保有している。

また、個別の政策保有株式について、毎年定期的に取締役会において、保有目的の適否に加えて、投資先企業の業績や財務体質を踏まえた保有リスク、含み損益、取引や配当による投資リターン等を総合的に評価することにより、保有の適否を検証している。

こうした方針の下で、当社は政策保有の意義が薄れたと判断した株式については、順次政策保有株式から純投資目的への変更または売却を行っている。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数（銘柄）	貸借対照表計上額の合計額（千円）
非上場株式		
非上場株式以外の株式	19	2,579,721

c．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額（千円）	貸借対照表計上額（千円）		
株大阪ソーダ	200,000	200,000	配当の獲得及び株式安定化のため保有。	有
	514,800	542,800		
大阪瓦斯株	227,500	227,500	エネルギー調達の円滑化のため保有。	有
	463,190	496,860		
株三菱UFJフィナンシャル・グループ	983,620	983,620	同社グループには当社の主要取引銀行が属しており、資金調達等金融取引の円滑化のため保有。	有
	396,398	540,991		
モリ工業株	125,800	125,800	配当の獲得及び株式安定化のため保有。	有
	313,745	296,384		
合同製鐵株	118,600	118,600	主原料である線材の安定調達を行うとともに、同社のグループ会社を窓口商社として当社の線材製品の販売を行っており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	249,297	196,283		
小林産業株	557,400	557,400	鋸螺線材製品販売の維持・強化のため保有。	有
	149,940	192,860		
コンドーテック株	124,200	124,200	鋸螺線材製品販売の維持・強化のため保有。	有
	115,381	124,945		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱池田泉州ホールディングス	638,591	638,591	同社グループには当社の主要取引銀行が属しており、資金調達等金融取引の円滑化のため保有。	有
	104,090	181,359		
フルサト工業㈱	48,315	48,315	鋳螺線材製品販売の維持・強化のため保有。	無
	69,670	77,883		
阪和興業㈱	29,800	29,800	同社を窓口商社として当社の線材製品の販売及び主原料である線材の購入を行っており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	50,123	91,933		
㈱関西みらいフィナンシャルグループ	119,393	119,393	同社グループには当社の主要取引銀行が属しており、資金調達等金融取引の円滑化のため保有。	有
	46,443	93,962		
モリテックスチール㈱	100,000	100,000	同社を窓口として特殊線材製品を販売しており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	26,200	41,100		
双日㈱	80,000	80,000	同社のグループ会社を窓口商社として当社の線材製品の販売及び主原料である線材の購入を行っており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	20,320	31,200		
三井金属鉱業㈱	10,000	10,000	副原料である亜鉛等の安定調達及び同社グループへの普通線材製品販売の維持・強化のため保有。	有
	18,070	28,390		
日建工学㈱	25,000	25,000	普通線材製品及び鋳螺線材製品の販売の維持・強化のため保有。	有
	16,775	24,375		
岡谷鋼機㈱	1,000	1,000	同社を窓口商社として鋳螺線材製品及び普通線材製品を販売しており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	8,050	9,190		
㈱りそなホールディングス	24,000	24,000	同社グループには当社の取引銀行が属しており、資金調達等金融取引の円滑化のため保有。	有
	7,804	11,512		
大阪製鐵㈱	5,000	5,000	同社のグループ会社を窓口商社として鋳螺線材製品を販売しており、取引関係の維持・強化のため保有。	無
	5,770	9,385		
日鉄物産㈱	1,000	1,000	同社を窓口商社として当社の線材製品の販売及び主原料である線材の購入を行っており、取引関係の維持・強化のため保有。	有
	3,650	4,500		

(注) 1 . 特定投資株式における定量的な保有効果については、守秘義務等の観点から記載が困難である。保有の合理性については、2019年12月の取締役会において個別銘柄毎に保有目的の適否、投資先企業の業績や財務体質を踏まえた保有リスク、含み損益、取引や配当による投資リターン等を総合的に評価することにより検証している。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数（銘柄）	貸借対照表計上額の合計額（千円）	銘柄数（銘柄）	貸借対照表計上額の合計額（千円）
非上場株式	4	2,002,359	4	2,002,359
非上場株式以外の株式	23	1,189,750	23	1,403,536

区分	当事業年度			
	受取配当金の合計額（千円）	売却損益の合計額（千円）	評価損益の合計額（千円）	
			含み損益	減損処理額
非上場株式	60,002			
非上場株式以外の株式	49,477		393,009	86,287

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成している。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成している。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けている。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っている。具体的には、会計基準等の内容や変更等を適時適切に把握し、的確に対応出来るようにするため、公益財団法人財務会計基準機構への加入並びに同機構及び監査法人等が主催する講習会に参加する等積極的な情報収集活動に努めている。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,574,790	10,541,774
受取手形及び売掛金	3 8,249,139	7,436,148
電子記録債権	3 2,510,474	3,276,541
有価証券	-	1,853,868
製品	5,240,710	5,224,063
仕掛品	1,006,700	1,062,584
原材料及び貯蔵品	2,211,015	2,798,129
その他	448,591	412,068
貸倒引当金	5,235	5,184
流動資産合計	33,236,185	32,599,993
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,918,260	4,204,854
機械装置及び運搬具（純額）	3,473,039	3,225,229
土地	9,110,955	9,110,955
建設仮勘定	341,315	381,529
その他（純額）	136,626	136,905
有形固定資産合計	2 16,980,196	2 17,059,473
無形固定資産		
ソフトウェア	389,092	185,959
ソフトウェア仮勘定	622	-
その他	3,895	3,439
無形固定資産合計	393,609	189,399
投資その他の資産		
投資有価証券	1 14,039,195	1 12,758,595
退職給付に係る資産	169,176	128,347
繰延税金資産	396,335	429,922
その他	1,279,118	1,392,654
貸倒引当金	28,825	28,824
投資その他の資産合計	15,855,001	14,680,695
固定資産合計	33,228,807	31,929,568
資産合計	66,464,993	64,529,562

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 3,782,039	3,889,308
電子記録債務	3 2,180,916	2,515,539
短期借入金	1,725,095	1,916,000
1年内返済予定の長期借入金	2,792,000	849,000
未払金	1,003,694	843,051
未払法人税等	479,359	5,171
賞与引当金	260,786	284,583
設備関係支払手形	3 237,526	391,430
営業外電子記録債務	3 121,191	159,664
関係会社整理損失引当金	611,112	305,282
災害損失引当金	168,566	8,641
その他	555,590	404,469
流動負債合計	13,917,879	11,572,143
固定負債		
長期借入金	3,859,000	4,130,000
繰延税金負債	516,057	535,674
役員退職慰労引当金	202,834	219,391
退職給付に係る負債	1,960,588	2,029,665
その他	61,570	61,547
固定負債合計	6,600,051	6,976,278
負債合計	20,517,931	18,548,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,720,068	10,720,068
資本剰余金	10,888,051	10,888,051
利益剰余金	21,432,596	21,526,628
自己株式	1,021,358	1,021,476
株主資本合計	42,019,358	42,113,272
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	829,555	755,290
為替換算調整勘定	305,171	325,225
退職給付に係る調整累計額	75,690	88,054
その他の包括利益累計額合計	1,059,036	992,461
非支配株主持分	2,868,667	2,875,406
純資産合計	45,947,062	45,981,140
負債純資産合計	66,464,993	64,529,562

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	31,247,181	30,939,114
売上原価	4 25,310,411	4 24,567,781
売上総利益	5,936,769	6,371,333
販売費及び一般管理費		
発送運賃	1,560,998	1,519,069
荷造費	414,978	408,326
貸倒引当金繰入額	8,787	390
役員報酬	250,770	238,680
給料	924,874	901,092
賞与引当金繰入額	71,349	77,277
退職給付費用	51,295	53,100
役員退職慰労引当金繰入額	38,241	35,836
福利厚生費	264,787	242,134
賃借料	121,366	114,642
雑費	1,086,594	1,030,533
販売費及び一般管理費合計	1 4,776,468	1 4,621,084
営業利益	1,160,300	1,750,248
営業外収益		
受取利息	132,141	133,225
受取配当金	249,130	255,860
有価証券売却益	76,145	207
受取賃貸料	32,539	33,469
保険解約返戻金	23,533	-
太陽光売電収入	58,994	59,792
為替差益	5,322	-
雑収入	34,001	26,269
営業外収益合計	611,809	508,825
営業外費用		
支払利息	80,074	34,232
持分法による投資損失	110,451	86,943
太陽光売電原価	34,715	33,647
為替差損	-	58,561
雑支出	24,864	11,942
営業外費用合計	250,106	225,327
経常利益	1,522,003	2,033,746

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
特別利益		
固定資産売却益	2 115	2 166
投資有価証券評価益	34,999	11,684
災害による保険金収入	5 616,759	5 38,764
特別利益合計	651,874	50,615
特別損失		
投資有価証券評価損	-	1,367,977
固定資産除却損	25,504	15,668
固定資産売却損	3 336	3 428
解体撤去費用	37,254	23,861
災害による損失	6 368,214	6 33,881
関係会社整理損失引当金繰入額	7 613,710	-
その他	42,200	-
特別損失合計	1,087,220	1,441,817
税金等調整前当期純利益	1,086,657	642,544
法人税、住民税及び事業税	620,630	240,998
法人税等調整額	634,747	8,722
法人税等合計	14,117	249,720
当期純利益	1,100,774	392,823
非支配株主に帰属する当期純利益	121,332	8,404
親会社株主に帰属する当期純利益	979,442	384,419

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	1,100,774	392,823
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	608,886	82,575
為替換算調整勘定	108,968	21,201
退職給付に係る調整額	44,803	2,004
持分法適用会社に対する持分相当額	17,867	4,861
その他の包括利益合計	1 690,918	1 68,240
包括利益	409,856	324,583
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	298,973	317,844
非支配株主に係る包括利益	110,883	6,738

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,720,068	10,888,051	20,969,548	1,021,075	41,556,593
当期変動額					
剰余金の配当			338,791		338,791
親会社株主に帰属する 当期純利益			979,442		979,442
自己株式の取得				283	283
連結範囲の変動			177,602		177,602
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	-	463,048	283	462,765
当期末残高	10,720,068	10,888,051	21,432,596	1,021,358	42,019,358

	その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,426,527	367,517	96,078	1,697,965	2,869,107	46,123,666
当期変動額						
剰余金の配当						338,791
親会社株主に帰属する 当期純利益						979,442
自己株式の取得						283
連結範囲の変動						177,602
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	596,971	62,345	20,388	638,928	440	639,369
当期変動額合計	596,971	62,345	20,388	638,928	440	176,603
当期末残高	829,555	305,171	75,690	1,059,036	2,868,667	45,947,062

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,720,068	10,888,051	21,432,596	1,021,358	42,019,358
当期変動額					
剰余金の配当			290,387		290,387
親会社株主に帰属する 当期純利益			384,419		384,419
自己株式の取得				117	117
連結範囲の変動					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-
当期変動額合計			94,031	117	93,914
当期末残高	10,720,068	10,888,051	21,526,628	1,021,476	42,113,272

	その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	829,555	305,171	75,690	1,059,036	2,868,667	45,947,062
当期変動額						
剰余金の配当						290,387
親会社株主に帰属する 当期純利益						384,419
自己株式の取得						117
連結範囲の変動						-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	74,265	20,054	12,363	66,574	6,738	59,835
当期変動額合計	74,265	20,054	12,363	66,574	6,738	34,078
当期末残高	755,290	325,225	88,054	992,461	2,875,406	45,981,140

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,086,657	642,544
減価償却費	1,530,010	1,548,852
貸倒引当金の増減額（ は減少）	96,104	52
賞与引当金の増減額（ は減少）	25,615	23,797
関係会社整理損失引当金の増減額（ は減少）	613,710	270,856
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	76,718	117,730
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	25,202	16,556
災害による保険金収入	616,759	38,764
災害損失	368,214	33,881
受取利息及び受取配当金	381,271	389,086
支払利息	80,074	34,232
持分法による投資損益（ は益）	110,451	86,943
有価証券売却損益（ は益）	76,145	207
投資有価証券評価損益（ は益）	34,999	1,356,293
固定資産除売却損益（ は益）	25,724	15,930
たな卸資産の増減額（ は増加）	25,306	639,550
売上債権の増減額（ は増加）	649,710	37,130
仕入債務の増減額（ は減少）	270,345	450,474
未払消費税等の増減額（ は減少）	81,152	83,927
その他の流動資産の増減額（ は増加）	114,358	50,173
その他の流動負債の増減額（ は減少）	46,897	148,206
その他の固定資産の増減額（ は増加）	154,358	124,712
その他の固定負債の増減額（ は減少）	11,896	23
その他	51,194	104,022
小計	2,749,105	2,823,176
利息及び配当金の受取額	381,597	389,457
利息の支払額	80,317	36,385
災害による保険金受取額	616,759	38,764
災害損失の支払額	47,003	226,235
法人税等の支払額	489,786	737,731
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,130,354	2,251,046

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	5,800,000	5,800,000
定期預金の払戻による収入	5,800,000	5,800,000
有価証券の売却による収入	301,955	-
投資有価証券の取得による支出	188,539	1,204,099
投資有価証券の売却による収入	165,230	68,847
有形固定資産の取得による支出	725,328	1,372,539
有形固定資産の売却による収入	419	428
無形固定資産の取得による支出	52,614	6,110
貸付金の回収による収入	30	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	498,848	2,513,472
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	237,304	207,455
長期借入れによる収入	700,000	1,200,000
長期借入金の返済による支出	784,000	2,872,000
自己株式の取得による支出	283	117
配当金の支払額	331,846	296,914
財務活動によるキャッシュ・フロー	653,434	1,761,575
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,016	9,065
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,970,055	2,033,067
現金及び現金同等物の期首残高	7,710,475	9,774,790
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額（は減少）	94,259	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 9,774,790	1 7,741,722

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 5社

主要な連結子会社の名称

ジェイ-ワイテックス株式会社、滋賀ボルト株式会社、太陽メッキ株式会社、天津天冶日亜鋼業有限公司、烟台基威特鋼線製品有限公司

(2) 主要な非連結子会社名

日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社4社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためである。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 1社

会社等の名称

TSN Wires Co., Ltd.

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外している。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、天津天冶日亜鋼業有限公司及び烟台基威特鋼線製品有限公司の決算日は、12月31日である。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っている。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ただし、投資事業有限責任組合については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっている。

デリバティブ

時価法

たな卸資産

製品、原材料、仕掛品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

- (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
有形固定資産（リース資産を除く）
定率法を採用している。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。
なお、主な耐用年数は以下のとおりである。
建物及び構築物 15年～47年
機械装置及び運搬具 4年～10年
無形固定資産
定額法を採用している。
なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。
リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用している。
- (3) 重要な引当金の計上基準
貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。
賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上している。
役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。
関係会社整理損失引当金
関係会社の事業整理等に伴い、将来負担することとなる損失の発生に備えるため、当該損失見込額を計上している。
災害損失引当金
災害により被災した資産の復旧等に要する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上している。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。
数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理している。
小規模企業等における簡便法の採用
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用している。
- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めている。
- (6) 重要なヘッジ会計の方法
ヘッジ会計の方法
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用している。
ヘッジ手段とヘッジ対象
(ヘッジ手段)
金利スワップ取引
(ヘッジ対象)
借入金の利息
ヘッジ方針
借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っている。
ヘッジ有効性評価の方法
金利スワップについては、特例処理によっているため有効性の評価を省略している。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっている。
- (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準である。収益は、次の5つのステップを適用し認識される。

- ステップ1: 顧客との契約を識別する。
- ステップ2: 契約における履行義務を識別する。
- ステップ3: 取引価格を算定する。
- ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定である。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中である。

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものである。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定である。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものである。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定である。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にあるが、外部の情報源に基づく情報等を踏まえ、2021年3月期の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという一定の仮定に基づいて、2020年3月期の繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っている。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりである。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	380,625千円	288,820千円

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	36,941,385千円	37,723,275千円

3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理している。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理している。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形	769,069千円	
電子記録債権	650,788千円	
支払手形	172,793千円	
電子記録債務	768,710千円	
設備関係支払手形	14,082千円	
営業外電子記録債務	18,025千円	

4 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
TSN Wires Co., Ltd.	656,120千円 (188,000千THB)	628,973千円 (188,315千THB)

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	30,547千円	34,541千円

2 固定資産売却益の主な内訳

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
機械装置及び運搬具	115千円	
その他(工具、器具及び備品)		166千円

3 固定資産売却損の主な内訳

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	19,689千円	
機械装置及び運搬具	6,146千円	428千円

4 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下げ額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上原価	27,514千円	27,847千円

5 災害による保険金収入

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

2018年9月の台風被害による損失に対する保険金の入金額である。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

2018年9月の台風被害による損失に対する保険金の入金額である。

6 災害による損失

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

2018年9月の台風被害による損失額を計上しており、その内訳は被災した資産の復旧工事費用、固定資産除却損、棚卸資産処分損、操業休止期間中の固定費である。このうち、災害損失引当金繰入額は168,566千円である。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

2018年9月の台風被害による損失額を計上しており、その内訳は被災した資産の復旧工事費用である。このうち、災害損失引当金繰入額は27,699千円である。

また、2019年10月の台風被害による損失額6,182千円を計上しており、その内訳は被災した資産の棚卸資産処分損である。

7 関係会社整理損失引当金繰入額

連結子会社である天津天冶日亜鋼業有限公司の事業整理等に伴い、将来負担することとなる損失の発生に備えるため、当該損失見込額を計上している。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	764,119千円	1,470,127千円
組替調整額	111,144千円	1,356,085千円
税効果調整前	875,263千円	114,041千円
税効果額	266,377千円	31,466千円
その他有価証券評価差額金	608,886千円	82,575千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	57,694千円	33,306千円
組替調整額		
税効果調整前	57,694千円	33,306千円
税効果額	51,273千円	12,104千円
為替換算調整勘定	108,968千円	21,201千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	25,684千円	36,212千円
組替調整額	30,214千円	33,343千円
税効果調整前	4,530千円	2,868千円
税効果額	40,273千円	863千円
退職給付に係る調整額	44,803千円	2,004千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	17,867千円	4,861千円
その他の包括利益合計	690,918千円	68,240千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	51,755			51,755
自己株式				
普通株式	3,356	0		3,357

(変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次のとおりである。

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項なし。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	193,596	4	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	145,195	3	2018年9月30日	2018年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	145,194	3	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	51,755			51,755
自己株式				
普通株式	3,357	0		3,357

(変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次のとおりである。
単元未満株式の買取りによる増加 0千株

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項なし。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	145,194	3	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年11月12日 取締役会	普通株式	145,193	3	2019年9月30日	2019年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	145,193	3	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	13,574,790千円	10,541,774千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,800,000千円	3,800,000千円
有価証券		999,948千円
現金及び現金同等物	9,774,790千円	7,741,722千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業の運営に必要な資金については、自己資金を活用するとともに、銀行等金融機関からの借入により調達している。資金運用については有価証券運用規程の範囲で運用している。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されているが、基本的には契約時に総合商社を起用しリスク低減を図っている。また営業本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとにと信管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っている。

有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されているが、投機的な運用は回避しており、分散投資により安全性を保持している。また適時に時価の把握を行っている。

営業債務である支払手形、買掛金及び電子記録債務は、1年以内の支払期日である。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達である。返済日は決算日後、最長で5年以内である。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されている。

デリバティブ取引は、長期借入金の金利変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引を行っている。デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っている。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されているが、当社グループでは、各社の手許流動性の状況については、月次報告会で毎月報告することなどの方法により、流動性リスクを管理している。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもある。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではない。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めていない(注2)参照)。

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	13,574,790	13,574,790	
(2) 受取手形及び売掛金	8,249,139	8,249,139	
(3) 電子記録債権	2,510,474	2,510,474	
(4) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	11,594,141	11,594,141	
資産計	35,928,544	35,928,544	
(1) 支払手形及び買掛金	3,782,039	3,782,039	
(2) 電子記録債務	2,180,916	2,180,916	
(3) 短期借入金	1,725,095	1,725,095	
(4) 未払金	1,003,694	1,003,694	
(5) 設備関係支払手形	237,526	237,526	
(6) 営業外電子記録債務	121,191	121,191	
(7) 長期借入金 (1)	6,651,000	6,679,218	28,218
負債計	15,701,463	15,729,682	28,218
デリバティブ取引 (2)	()	()	

(1) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示している。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	10,541,774	10,541,774	
(2) 受取手形及び売掛金	7,436,148	7,436,148	
(3) 電子記録債権	3,276,541	3,276,541	
(4) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	12,259,214	12,259,214	
資産計	33,513,679	33,513,679	
(1) 支払手形及び買掛金	3,889,308	3,889,308	
(2) 電子記録債務	2,515,539	2,515,539	
(3) 短期借入金	1,916,000	1,916,000	
(4) 未払金	843,051	843,051	
(5) 設備関係支払手形	391,430	391,430	
(6) 営業外電子記録債務	159,664	159,664	
(7) 長期借入金 (1)	4,979,000	4,988,394	9,394
負債計	14,693,994	14,703,389	9,394
デリバティブ取引			

(1) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金並びに(3)電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券、投資信託等は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記に記載している。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、(4) 未払金、(5) 設備関係支払手形並びに(6) 営業外電子記録債務

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(7) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定している。変動金利による長期借入金の一部については金利スワップの特例処理の対象とされ、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定している。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記に記載している。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	2019年3月31日	2020年3月31日
非上場株式	2,395,054	2,303,249
その他	50,000	50,000

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	13,574,790			
受取手形及び売掛金	8,249,139			
電子記録債権	2,510,474			
有価証券及び投資有価証券				
債券				
社債		2,250,000	550,000	1,100,000
その他		300,000	1,400,000	100,000
その他		50,000		
合計	24,334,403	2,600,000	1,950,000	1,200,000

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	10,541,774			
受取手形及び売掛金	7,436,148			
電子記録債権	3,276,541			
有価証券及び投資有価証券				
債券				
社債 (1)	1,800,000	1,850,000	100,000	1,100,000
その他		500,000	1,900,000	100,000
その他	50,000			
合計	23,104,465	2,350,000	2,000,000	1,200,000

(1)社債のうち、償還期限の定めのない社債500,000千円については含めていない。

(注4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	2,792,000	649,000	2,980,000	140,000	90,000	
合計	2,792,000	649,000	2,980,000	140,000	90,000	

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	849,000	3,180,000	340,000	290,000	320,000	
合計	849,000	3,180,000	340,000	290,000	320,000	

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	4,023,924	2,280,142	1,743,781
債券			
社債	4,052,122	3,889,605	162,517
その他	530,686	449,000	81,686
その他	219,389	167,103	52,285
小計	8,826,121	6,785,851	2,040,270
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,507,345	2,279,942	772,596
債券			
社債			
その他	1,251,086	1,316,400	65,314
その他	9,588	12,186	2,598
小計	2,768,019	3,608,528	840,508
合計	11,594,141	10,394,379	1,199,761

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額である。

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	3,272,553	2,012,688	1,259,864
債券			
社債	2,925,413	2,839,553	85,860
その他	407,197	349,000	58,197
その他	198,565	161,408	37,157
小計	6,803,729	5,362,649	1,441,079
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,078,267	1,183,518	105,251
債券			
社債	2,422,885	2,500,000	77,115
その他	1,947,850	2,116,400	168,550
その他	6,483	10,926	4,443
小計	5,455,485	5,810,844	355,359
合計	12,259,214	11,173,493	1,085,720

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額である。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	108,845	74,190	
債券	301,955	1,955	
その他	56,385		
合計	467,185	76,145	

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式			
債券	50,207	207	
その他	18,639		
合計	68,847	207	

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
0千円	1,367,977千円

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項なし。

なお、組み込みデリバティブを区分して測定できない複合金融商品は、複合金融商品全体を時価評価し、「(有価証券関係) 1 その他有価証券」に含めて記載している。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,000,000		(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載している。

当連結会計年度(2020年3月31日)

該当事項なし。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び一時金制度を設けている。

なお、一部の連結子会社が有する一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算している。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,460,626	2,542,495
勤務費用	179,529	182,468
利息費用	16,892	17,585
数理計算上の差異の発生額	10,310	19,684
退職給付の支払額	124,862	94,507
退職給付債務の期末残高	2,542,495	2,628,356

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付債務を含んでいる。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	721,174	751,083
期待運用収益	23,068	23,782
数理計算上の差異の発生額	15,374	55,897
事業主からの拠出額	33,777	33,888
退職給付の支払額	11,562	25,818
年金資産の期末残高	751,083	727,038

(注) 簡便法を採用している連結子会社の年金資産を含んでいる。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2019年3月31日)	(2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	596,805	613,908
年金資産	751,083	727,038
	154,278	113,129
非積立型制度の退職給付債務	1,945,690	2,014,447
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,791,411	1,901,317
退職給付に係る負債	1,960,588	2,029,665
退職給付に係る資産	169,176	128,347
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,791,411	1,901,317

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付債務及び年金資産を含んでいる。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	179,529	182,468
利息費用	16,892	17,585
期待運用収益	23,068	23,782
数理計算上の差異の費用処理額	30,214	33,343
確定給付制度に係る退職給付費用	203,567	209,614

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用を含んでいる。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりである。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
数理計算上の差異	4,530	2,868
合計	4,530	2,868

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりである。

	(千円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
未認識数理計算上の差異	162,137	165,006
合計	162,137	165,006

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
株式	40%	32%
債券	22%	26%
一般勘定	32%	34%
その他	6%	8%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮している。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
割引率	0.3%~1.0%	0.3%~1.0%
長期期待運用収益率	3.0%	3.0%

(注) 採用している退職給付制度における数理計算にあたっては、予想昇給率を使用していないため、予想昇給率の記載を省略している。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	79,818千円	87,100千円
未払事業税	47,371千円	23,529千円
製品(横持費用)	3,537千円	2,990千円
退職給付に係る負債	599,989千円	621,126千円
役員退職慰労引当金	62,088千円	67,163千円
貸倒引当金繰入限度超過額	10,784千円	10,919千円
税務上の繰越欠損金(注)1	414,773千円	422,796千円
減損損失	173,758千円	144,077千円
投資有価証券	41,041千円	40,256千円
たな卸資産評価損	39,930千円	48,523千円
関係会社整理損失引当金	186,878千円	93,355千円
子会社の留保利益	93,134千円	186,657千円
その他	88,718千円	69,086千円
繰延税金資産小計	1,841,827千円	1,817,583千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	340,723千円	360,119千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	194,812千円	169,233千円
評価性引当額	535,536千円	529,352千円
繰延税金資産合計	1,306,290千円	1,288,230千円
(繰延税金負債)		
連結子会社の土地時価評価	454,633千円	454,633千円
連結子会社の評価差額金	503,264千円	503,264千円
その他有価証券評価差額金	364,725千円	332,927千円
退職給付に係る資産	51,734千円	39,248千円
為替換算調整勘定	51,273千円	63,377千円
その他	381千円	529千円
繰延税金負債合計	1,426,012千円	1,393,982千円
繰延税金負債の純額	119,722千円	105,752千円

(注) 1. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	54,888	118,600	50,492	51,127	139,665	-	414,773千円
評価性引当額	54,888	86,590	50,492	51,127	97,624	-	340,723千円
繰延税金資産	-	32,009	-	-	42,041	-	(b)74,050千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額である。

(b) 税務上の繰越欠損金414,773千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産74,050千円を計上している。当該繰延税金資産74,050千円は、連結子会社ジェイ-ワイテックス株式会社における税務上の繰越欠損金の残高71,206千円(法定実効税率を乗じた額)並びに滋賀ポルト株式会社における税務上の繰越欠損金の残高31,736千円(法定実効税率を乗じた額)の一部について認識したものである。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、ジェイ-ワイテックス株式会社においては2012年3月期に税引前当期純損失545,236千円及び2015年3月期に税引前当期純損失132,066千円を計上したこと、滋賀ポルト株式会社においては2012年3月期に税引前純損失101,270千円を計上したことにより生じたものであり、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し評価性引当額を認識していない。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	93,658	50,492	51,127	139,665	78,918	8,933	422,796千円
評価性引当額	81,956	50,492	51,127	97,624	78,918	-	360,119千円
繰延税金資産	11,702	-	-	42,041	-	8,933	(b)62,676千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額である。

(b) 税務上の繰越欠損金422,796千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産62,676千円を計上している。当該繰延税金資産62,676千円は、連結子会社ジェイ-ワイテックス株式会社における税務上の繰越欠損金の残高51,637千円(法定実効税率を乗じた額)及び太陽メッキ株式会社における税務上の繰越欠損金の残高8,933千円(法定実効税率を乗じた額)並びに滋賀ボルト株式会社における税務上の繰越欠損金の残高26,364千円(法定実効税率を乗じた額)の一部について認識したものである。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、ジェイ-ワイテックス株式会社においては2012年3月期に税引前当期純損失545,236千円及び2015年3月期に税引前当期純損失132,066千円を計上したこと、滋賀ボルト株式会社においては2012年3月期に税引前当期純損失101,270千円を計上したこと、太陽メッキにおいては2020年3月期に欠損金額28,110千円が生じたものであり、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断し評価性引当額を認識していない。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
評価性引当額	31.3%	0.1%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9%	1.4%
寄附金の損金不算入額	1.6%	0.8%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.6%	3.0%
住民税均等割等	2.4%	4.0%
国内会社の法定実効税率と海外会社の税率差	1.4%	0.2%
持分法による投資損失	3.1%	4.1%
子会社の留保利益	8.6%	-%
その他	0.2%	0.7%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.3%	38.9%

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略している。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略している。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社及び連結子会社の報告セグメントは、当社及び連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検証を行う対象となっているものである。

当社及び連結子会社は、本先に素材別の販売部を置き、各販売部は取り扱う製品について主に国内での販売活動を展開している。

従って、当社及び連結子会社は主として素材別セグメントから構成されており、「普通線材製品」、「特殊線材製品」、「鋳螺線材製品」及び「不動産賃貸」の4つを報告セグメントとしている。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「普通線材製品」は、主に各種めっき鉄線、めっき鉄線を素線とした加工製品を製造及び販売している。

「特殊線材製品」は、主に硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープを製造及び販売している。

「鋳螺線材製品」は、主にトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト、GNボルトを製造及び販売している。

「不動産賃貸」は、主に個人住宅向賃貸用不動産を所有・経営している。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	普通線材 製品	特殊線材 製品	鋳螺線材 製品	不動産 賃貸	計				
売上高									
外部顧客への売上高	10,302,220	15,078,659	5,109,047	136,335	30,626,263	620,918	31,247,181		31,247,181
セグメント間の 内部売上高又は振替高									
計	10,302,220	15,078,659	5,109,047	136,335	30,626,263	620,918	31,247,181		31,247,181
セグメント利益	588,875	171,238	305,991	85,245	1,151,350	8,950	1,160,300		1,160,300
セグメント資産	9,209,819	17,945,326	4,325,777	2,149,212	33,630,135	904,228	34,534,364	31,930,629	66,464,993
その他の項目									
減価償却費	577,300	691,524	199,585	32,471	1,500,882	7,208	1,508,091	25,773	1,533,864
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	154,893	596,007	89,390	213,808	1,054,101	6,760	1,060,861	55,980	1,116,842

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、めっき受託加工等を含んでいる。

2. 調整額は、以下のとおりである。

- (1) セグメント資産の調整額31,930,629千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産である。全社資産は、主に現金及び預金、投資有価証券、本社建物等である。
- (2) 減価償却費の調整額25,773千円は、太陽光発電設備に係る減価償却費である。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額55,980千円は、機械装置等の設備投資額である。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致している。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	普通線材 製品	特殊線材 製品	鋳螺線材 製品	不動産 賃貸	計				
売上高									
外部顧客への売上高	10,001,126	14,710,804	5,442,344	210,841	30,365,117	573,997	30,939,114		30,939,114
セグメント間の 内部売上高又は振替高									
計	10,001,126	14,710,804	5,442,344	210,841	30,365,117	573,997	30,939,114		30,939,114
セグメント利益又は損失()	895,283	74,241	759,165	153,189	1,733,397	16,850	1,750,248		1,750,248
セグメント資産	8,962,744	18,195,264	4,974,586	2,147,981	34,280,576	878,974	35,159,550	29,370,011	64,529,562
その他の項目									
減価償却費	571,213	703,998	203,600	39,498	1,518,310	7,611	1,525,921	22,930	1,548,852
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	335,669	842,651	143,527	1,774	1,323,622	7,626	1,331,248	138,661	1,469,910

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、めっき受託加工等を含んでいる。

2. 調整額は、以下のとおりである。

- (1) セグメント資産の調整額29,370,011千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産である。全社資産は、主に現金及び預金、投資有価証券、本社建物等である。
- (2) 減価償却費の調整額22,930千円は、太陽光発電設備に係る減価償却費である。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額138,661千円は、機械装置等の設備投資額である。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致している。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略している。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略している。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社メタルワン鉄鋼製品販売	3,317,257	普通線材製品、特殊線材製品及び鋸螺線材製品

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略している。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略している。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社メタルワン鉄鋼製品販売	3,348,771	普通線材製品、特殊線材製品及び鋸螺線材製品

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項なし。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項なし。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項なし。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
関連会社	TSN Wires CO.,Ltd.	タイ国 バンコク	700,000千 THB	金属製品 製造業	(所有) 直接40.0	兼任2人	債務保証	656,120 (188,000千 THB)		

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれていない。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

金融機関からの借入に対して、債務保証を行っている。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
関連会社	TSN Wires CO.,Ltd.	タイ国 バンコク	700,000千 THB	金属製品 製造業	(所有) 直接40.0	兼任2人	債務保証	628,973 (188,315千 THB)		

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれていない。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

金融機関からの借入に対して、債務保証を行っている。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
重要な子会社の役員	鳥井 博康			ジェイ・ワイテックス株式会社取締役 住友電工スチールワイヤー株式会社代表取締役社長	なし	住友電工スチールワイヤー株式会社は原材料の仕入先	住友電工スチールワイヤー株式会社からの原材料の仕入	853,734	買掛金	301,927

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれている。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

鳥井博康が第三者(住友電工スチールワイヤー株式会社)の代表者として行った取引であり、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っている。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項なし。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項なし。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	890.08円	890.65円
1株当たり当期純利益	20.24円	7.94円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	979,442	384,419
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	979,442	384,419
期中平均株式数(株)	48,398,515	48,397,822

(重要な後発事象)

該当事項なし。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項なし。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,725,095	1,916,000	0.433	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,792,000	849,000	0.311	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	3,859,000	4,130,000	0.387	2021年4月30日～ 2025年2月28日
合計	8,376,095	6,895,000		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載している。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	3,180,000	340,000	290,000	320,000

【資産除去債務明細表】

該当事項なし。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,523,003	15,374,063	23,411,675	30,939,114
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	225,524	628,412	1,320,711	642,544
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	147,459	432,296	918,405	384,419
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	3.05	8.93	18.98	7.94

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり 四半期純利益又は 1株当たり 四半期純損失() (円)	3.05	5.89	10.04	11.03

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,236,477	8,737,700
受取手形	2 2,179,297	1,375,932
電子記録債権	2 1,515,355	2,213,551
売掛金	1 2,694,127	1 2,802,174
有価証券	-	1,853,868
製品	3,033,109	3,174,815
仕掛品	196,185	218,867
原材料及び貯蔵品	890,149	1,263,449
前払費用	23,519	23,898
短期貸付金	1 364,096	1 561,489
未収入金	1 8,283	1 15,418
立替金	1 273,605	1 241,683
その他	12,072	19,388
貸倒引当金	4,607	4,707
流動資産合計	22,421,673	22,497,531
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,704,617	2,771,214
構築物（純額）	185,126	166,741
機械及び装置（純額）	1,336,483	1,282,950
車両運搬具（純額）	2,152	1,672
工具、器具及び備品（純額）	70,146	80,727
土地	2,948,386	2,948,386
建設仮勘定	267,766	135,057
有形固定資産合計	7,514,680	7,386,750
無形固定資産		
ソフトウェア	296,282	115,783
その他	839	416
無形固定資産合計	297,122	116,199
投資その他の資産		
投資有価証券	12,514,683	11,876,357
関係会社株式	2,662,889	2,133,468
長期貸付金	1 599,149	1 1,462,489
長期前払費用	3,547	22,632
繰延税金資産	365,540	390,751
保険積立金	1,051,426	1,098,380
その他	283,880	321,585
貸倒引当金	27,700	28,200
投資損失引当金	-	91,805
投資その他の資産合計	17,453,417	17,185,658
固定資産合計	25,265,220	24,688,609
資産合計	47,686,893	47,186,140

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	2 18,356	17,773
電子記録債務	1, 2 2,404,326	1 2,270,124
買掛金	1 984,672	1 1,239,853
1年内返済予定の長期借入金	200,000	200,000
未払金	1 511,863	1 428,062
未払費用	140,639	151,645
未払法人税等	378,628	-
未払消費税等	102,709	33,164
前受金	13,289	9,732
預り金	1 12,407	1 13,425
賞与引当金	134,679	154,300
関係会社整理損失引当金	446,469	446,469
営業外電子記録債務	2 100,487	122,722
流動負債合計	5,448,531	5,087,274
固定負債		
長期借入金	2,400,000	2,200,000
退職給付引当金	796,865	850,134
役員退職慰労引当金	128,900	146,460
その他	60,320	60,297
固定負債合計	3,386,086	3,256,891
負債合計	8,834,617	8,344,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,720,068	10,720,068
資本剰余金		
資本準備金	10,888,032	10,888,032
その他資本剰余金	18	18
資本剰余金合計	10,888,051	10,888,051
利益剰余金		
利益準備金	655,131	655,131
その他利益剰余金		
別途積立金	12,159,226	12,159,226
繰越利益剰余金	4,647,275	4,701,200
利益剰余金合計	17,461,633	17,515,558
自己株式	1,021,358	1,021,476
株主資本合計	38,048,395	38,102,202
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	803,879	739,771
評価・換算差額等合計	803,879	739,771
純資産合計	38,852,275	38,841,974
負債純資産合計	47,686,893	47,186,140

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	1 17,173,511	1 17,848,273
売上原価	1 13,512,001	1 13,586,621
売上総利益	3,661,510	4,261,652
販売費及び一般管理費	1, 2 2,628,563	1, 2 2,606,019
営業利益	1,032,946	1,655,632
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 376,047	1 392,346
有価証券売却益	76,145	207
保険解約返戻金	23,533	-
為替差益	6,007	-
雑収入	1 16,887	1 17,587
営業外収益合計	498,621	410,141
営業外費用		
支払利息	9,301	9,010
為替差損	-	25,403
雑支出	1,189	4,261
営業外費用合計	10,490	38,674
経常利益	1,521,077	2,027,098
特別利益		
投資損失引当金戻入額	102,145	-
災害による保険金収入	3 53,712	-
投資有価証券評価益	34,999	11,684
固定資産売却益	58	166
特別利益合計	190,914	11,850
特別損失		
固定資産除却損	22,289	5,126
固定資産売却損	336	428
投資有価証券評価損	-	1,367,977
関係会社整理損失引当金繰入額	5 446,469	-
関係会社株式評価損	421,937	-
投資損失引当金繰入額	-	91,805
解体撤去費用	35,510	21,400
災害による損失	4 42,815	-
特別損失合計	969,357	1,486,738
税引前当期純利益	742,634	552,211
法人税、住民税及び事業税	506,000	208,324
法人税等調整額	306,243	425
法人税等合計	199,756	207,898
当期純利益	542,878	344,312

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
						別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051	655,131	12,159,226	4,443,189	17,257,547
当期変動額								
剰余金の配当							338,791	338,791
当期純利益							542,878	542,878
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	204,086	204,086
当期末残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051	655,131	12,159,226	4,647,275	17,461,633

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,021,075	37,844,592	1,386,289	1,386,289	39,230,881
当期変動額					
剰余金の配当		338,791			338,791
当期純利益		542,878			542,878
自己株式の取得	283	283			283
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			582,409	582,409	582,409
当期変動額合計	283	203,803	582,409	582,409	378,606
当期末残高	1,021,358	38,048,395	803,879	803,879	38,852,275

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
						別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051	655,131	12,159,226	4,647,275	17,461,633
当期変動額								
剰余金の配当							290,387	290,387
当期純利益							344,312	344,312
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	53,924	53,924
当期末残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051	655,131	12,159,226	4,701,200	17,515,558

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,021,358	38,048,395	803,879	803,879	38,852,275
当期変動額					
剰余金の配当		290,387			290,387
当期純利益		344,312			344,312
自己株式の取得	117	117			117
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			64,108	64,108	64,108
当期変動額合計	117	53,807	64,108	64,108	10,301
当期末残高	1,021,476	38,102,202	739,771	739,771	38,841,974

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式
 - 移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの
 - 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの
 - 移動平均法による原価法
 - ただし、投資事業有限責任組合については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっている。
 - (2) デリバティブの評価基準及び評価方法
 - 時価法
 - (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - 製品、原材料、仕掛品
 - 移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)
 - 貯蔵品
 - 最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)
2. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
 - 定率法を採用している。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。
 - (2) 無形固定資産
 - 定額法を採用している。
 - なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用期間(5年)に基づく定額法を採用している。
 - (3) リース資産
 - リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用している。
3. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。
 - (2) 賞与引当金
 - 従業員の賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計上している。
 - (3) 退職給付引当金
 - 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌事業年度から費用処理している。
 - (4) 役員退職慰労引当金
 - 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。
 - (5) 投資損失引当金
 - 関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上している。
 - (6) 関係会社整理損失引当金
 - 関係会社の事業整理等に伴い、将来負担することとなる損失の発生に備えるため、貸付に対する回収不能見込額を含めた当該損失見込み額を計上している。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項
 - (1) 退職給付に係る会計処理
 - 退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理方法は、連結財務諸表における会計処理と異なっている。
 - (2) 消費税等の会計処理
 - 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況に

あるが、外部の情報源に基づく情報等を踏まえ、2021年3月期の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという一定の仮定に基づいて、2020年3月期の繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っている。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりである。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	752,360千円	929,154千円
長期金銭債権	599,149千円	1,491,916千円
短期金銭債務	962,623千円	527,123千円

2 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理している。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理している。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
受取手形	721,366千円	
電子記録債権	505,506千円	
支払手形	5,312千円	
電子記録債務	811,575千円	
営業外電子記録債務	16,141千円	

3 保証債務

下記の会社の金融機関からの借入金に対して、債務保証を行っている。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
ジェイ-ワイテックス株式会社	800,000千円	900,000千円
天津天冶日亜鋼業有限公司	405,113千円 (3,650千USD)	
TSN Wires Co., Ltd.	656,120千円 (188,000千THB)	628,973千円 (188,315千THB)

(損益計算書関係)

- 1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額は、次のとおりである。

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	287,276千円	277,963千円
仕入高	2,519,977千円	2,773,551千円
その他の営業取引高	40,381千円	42,932千円
営業取引以外の取引による取引高	56,433千円	50,573千円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりである。

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
運搬費	931,358千円	924,968千円
従業員給料	525,281千円	535,269千円
賞与引当金繰入額	50,865千円	56,384千円
役員報酬	141,366千円	132,419千円
退職給付費用	29,582千円	31,001千円
役員退職慰労引当金繰入額	25,279千円	23,450千円
減価償却費	208,852千円	199,807千円
おおよその割合		
販売費	57.9%	59.6%
一般管理費	42.1%	40.4%

- 3 災害による保険金収入

2018年9月の台風被害による損失に対する保険金の入金額である。

- 4 災害による損失

2018年9月の台風被害による損失額を計上しており、その内訳は被災した資産の復旧工事費用、固定資産除却損、棚卸資産処分損である。

- 5 関係会社整理損失引当金繰入額

連結子会社である天津天冶日亜鋼業有限公司の事業整理等に伴い、将来負担することとなる損失の発生に備えるため、貸付に対する回収不能見込額を含めた当該損失見込額を計上している。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していない。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりである。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	1,440,607	1,440,607
関連会社株式	216,557	216,557
計	1,657,165	1,657,165

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	41,185千円	47,185千円
未払事業税	35,666千円	17,191千円
製品(横持費用)	3,537千円	2,990千円
退職給付引当金	243,681千円	259,971千円
役員退職慰労引当金	39,417千円	44,787千円
貸倒引当金繰入限度超過額	9,863千円	10,046千円
投資有価証券	40,006千円	39,221千円
減損損失	72,160千円	69,292千円
たな卸資産評価損	21,041千円	21,230千円
関係会社株式	328,931千円	328,931千円
投資損失引当金	-千円	28,074千円
関係会社整理損失引当金	136,530千円	136,530千円
その他	19,855千円	18,194千円
繰延税金資産小計	991,879千円	1,023,648千円
評価性引当額	222,888千円	250,962千円
繰延税金資産合計	768,990千円	772,685千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	346,543千円	321,757千円
前払年金費用	56,906千円	60,176千円
繰延税金負債合計	403,450千円	381,934千円
繰延税金資産又は負債の純額	365,540千円	390,751千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
評価性引当額	6.6%	5.1%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0%	1.3%
寄附金の損金不算入額	2.1%	0.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.3%	3.2%
住民税均等割等	2.2%	3.0%
その他	0.1%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.9%	37.6%

(重要な後発事象)

該当事項なし。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産						
建物	2,704,617	284,025	0	217,428	2,771,214	5,511,789
構築物	185,126	9,074	80	27,379	166,741	1,052,629
機械及び装置	1,336,483	365,300	5,822	413,010	1,282,950	9,192,860
車両運搬具	2,152	1,400	0	1,879	1,672	32,694
工具、器具及び備品	70,146	66,011	0	55,430	80,727	486,596
土地	2,948,386				2,948,386	
建設仮勘定	267,766	633,810	766,519		135,057	
有形固定資産計	7,514,680	1,359,621	772,422	715,129	7,386,750	16,276,570
無形固定資産						
ソフトウェア	296,282	5,150	2,205	183,444	115,783	
ソフトウェア仮勘定		6,637	6,637			
その他	839			423	416	
無形固定資産計	297,122	11,787	8,842	183,867	116,199	

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりである。

機械及び装置	茨城伸線機更新(4号)	113,091千円
建設仮勘定	茨城伸線機更新(3号)	110,436千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	32,307	5,500	4,900	32,907
投資損失引当金		91,805		91,805
賞与引当金	134,679	154,300	134,679	154,300
関係会社整理損失引当金	446,469			446,469
役員退職慰労引当金	128,900	23,450	5,890	146,460

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略している。

(3) 【その他】

該当事項なし。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 (特別口座)
株主名簿管理人	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としている。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載している。 当社の公告掲載URLは次のとおりである。 http://www.nichiasteel.co.jp/
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はない。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出している。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第67期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年6月27日 関東財務局長に提出
(2)	内部統制報告書及びその添付 書類	事業年度 (第67期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年6月27日 関東財務局長に提出
(3)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19 条第2項第9号の2(株主総会の議決権 行使結果)に基づく臨時報告書		2019年7月2日 関東財務局長に提出
(4)	四半期報告書、四半期報告書 の確認書	第68期 第1四半期	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	2019年8月9日 関東財務局長に提出
(5)	四半期報告書、四半期報告書 の確認書	第68期 第2四半期	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	2019年11月13日 関東財務局長に提出
(6)	四半期報告書、四半期報告書 の確認書	第68期 第3四半期	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	2020年2月13日 関東財務局長に提出
(7)	有価証券報告書の訂正報告 書、有価証券報告書の訂正報 告書の確認書	事業年度 (第67期)	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年8月22日 関東財務局長に提出
(8)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19 条第2項第3号(特定子会社の異動)に 基づく臨時報告書		2019年8月22日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月26日

日亜鋼業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅井 愁 星 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 智 則 印

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日亜鋼業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日亜鋼業株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な

監査証拠を入手する。

- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日亜鋼業株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、日亜鋼業株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管している。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていない。

独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

日亜鋼業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅井 愁 星 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 智 則 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日亜鋼業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第68期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日亜鋼業株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管している。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていない。